公立大学法人金沢美術工芸大学令和3年度事業報告書

令和4年 6月

公立大学法人金沢美術工芸大学

本報告書の内容は、	公立大学法人金沢美術工芸力	大学令和3年度業務実績報告書と	:同一である。

公立大学法人金沢美術工芸大学 令和3年度業務実績報告書

公立大学法人金沢美術工芸大学

□ 法人の概要

(1) 法人名

公立大学法人金沢美術工芸大学

(2) 所在地

金沢市小立野5丁目11番1号

(3) 設立団体

金沢市

(4) 設立年月日

平成22年4月1日

(5) 沿革

昭和21年(1946年) 11月 金沢美術工芸専門学校設立昭和25年(1950年) 4月 金沢美術工芸短期大学設立昭和30年(1955年) 4月 金沢美術工芸大学設立昭和47年(1972年) 4月 美術工芸研究所設置昭和54年(1979年) 4月 大学院修士課程設置平成 9年(1997年) 4月 大学院博士(後期)課程設置平成22年(2010年) 4月 公立大学法人に移行

(6) 組織

別紙組織図のとおり

(7) 役員

理事長 山崎 剛

理事 安島 諭

理事 桑村 佐和子

理事 吉田 康敏

理事 長谷 進一

監事 米田 満

監事 織田 明彦

(8) 教職員数(令和4年4月1日現在)

教員58名職員14名

(9) 学部等の構成

美術工芸学部

美術科、デザイン科、工芸科

美術工芸研究科

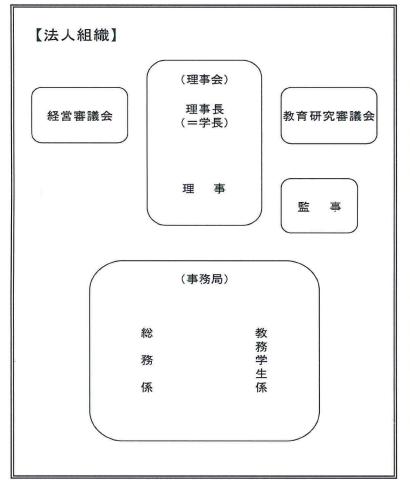
修士課程、博士後期課程

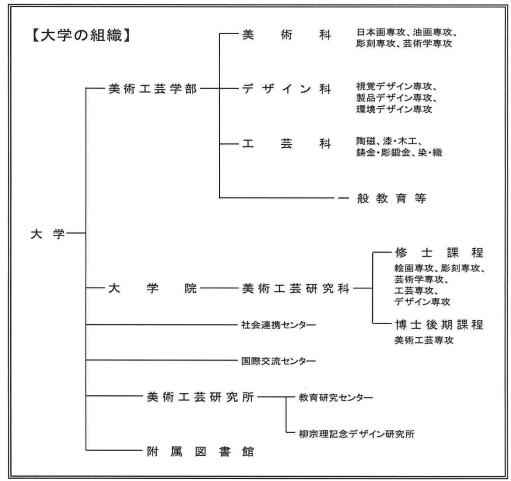
(10) 学生数(令和4年4月1日現在)

学部学生 637名

大学院学生 89名

公立大学法人金沢美術工芸大学組織図





口 全体的実施状況

第2期中期計画間の最終年となる令和3年度も、芸術系大学として、教育、研究、社会連携、国際化等の諸活動を推進するとともに 業務運営の改善及び効率化を図るため、125項目の年度計画を策定し、その実現に努めた。その主な結果は、以下のとおりである。

1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標(教育に関する目標)

- 〇本学の教育目標とする「芸術が社会に果たす役割を自ら探し行動する人材」育成に対して「学位授与方針 (DP)」、「教育課程編成方針 (CP)」、「学生の受入方針 (AP)」の3つのポリシーを定め、DPの達成のために、教務委員会ではCP、入試委員会ではAPについて協議する体制を構築している。3年度も、学部の教育目標及び各科・専攻の教育方針と3つのポリシーの連関性について、各委員会等での検証を踏まえ、学長のガバナンスの下で教育研究審議会を中心とする全学的な検証を行った。さらに、CPとDPの関係を学生にわかりやすく示すために、カリキュラムマップを作成し、公開に向けて準備を行った。
- 〇学生の個展・グループ展の開催については、学生展等開催交付金を 56 件交付し、ホームページ上での開催案内を行った。また公募展の多くが中止となったが、一部の公募展は開催され、公募展出品等事業補助金を 31 件交付した。これらの交付により、学生の自主的な学外発表活動の支援を行った。
- 〇学生の英語能力向上を図るため、あらたに英語能力試験の受験費を補助するとともに成績優秀者に奨励金を交付する制度を設け、 補助金を6名に、奨励金を1名に対し交付した。
- 〇後期より学生相談室の開室時間を相談数に応じてこれまでの2倍の1日4時間に延長し相談業務を強化した。
- 〇合理的配慮については学生および教職員も分かりやすいように、学生便覧にその申請におけるフローチャートを示すとともに、2 月に行われた FD 研修においても学外から講師を招き合理的配慮の基本的な流れと教職員の役割・支援体制について学び、個々の学生の実情に応じて支援できる体制の充実を図った。
- 〇日本学生支援機構の「新型コロナウイルス感染症対策助成金」を活用した学生支援事業として、本学内で販売しているパン・弁当 等の購入時に使用可能な「学生昼食サポート券」を、正規学生 700 名に 1 人当たり 3,000 円分を支給した。

- 〇優秀な私費外国人留学生を奨励するため、新たに「私費外国人留学生支援奨学金」の給付制度を創設し、修士課程入試成績が優秀であった留学生1名に対して、奨学金を給付した。
- O3 年度一般選抜に引き続き、学校推薦型選抜及び大学院・研究生入試において、紙資料での出願方法を廃止し、インターネット出願システムを導入したことで、本学が実施する全ての入試区分がインターネット出願に切り替わった。これにより、志願者は 24 時間コンビニ等での考査料の支払いが可能となったほか、出願書類の記入に要する時間も短縮されるなど、利便性の大幅な向上が図られた。

2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標(研究に関する目標)

- 〇本学の美術工芸研究所では「平成の百工比照収集事業」を実施しており、金沢の地域文化の発展のために、ものづくりにおける素材と技術、工程を学ぶ教育を充実させる研究に取り組んでいる。
- 〇国立民族学博物館と連携協定に基づく、「平成の百工比照コレクションデータベースを基に、高等教育におけるデータベースの在り 方及び活用手法について検証するとともに、社会連携事業と連動させることにより、高等教育教材の実用化を目的とする研究」を 推進し、高等教育教材(映像)の制作を行った。
- 〇従来の一般公開に留まらず、専門的な研究者や民間の産業従事者がデータベースを駆使し、新たな技術研究や製品開発を行うなど、「平成の百工比照」を産業分野においても活用できる環境整備を目指している。その一環として、美術工芸研究所ギャラリーにおいて、平成の百工比照の全資料を対象とする検索システムを稼働している。
- 〇平成の百工比照コレクションの海外へ向けた発信のため、工芸技術記録映像のキャプションや解説の英訳に取り組み、英語版の記録映像を完成させた。
- 〇国立国会図書館がデジタル化した資料の内、絶版等の理由で入手が困難な資料について、デジタル画像の閲覧及び複写ができるサービスを 5 月から開始し、教育と研究の環境の充実に努めた。館内専用端末から約 150 万点の資料の利用が可能となり、オンラインによる迅速な資料提供を実現した。

3 大学の教育研究等の質の向上に関する目標(その他の目標)

O2 年度新型コロナ感染症の拡大により会期が 1 年間延期となった「奥能登国際芸術祭 2020」は「奥能登国際芸術祭 2020+」として 9 月 4 日から 11 月 5 日まで開催された。

珠洲市との連携協定に基づいて、専攻を超えた学生と教員の合同アートプロジェクトチームである「スズプロ」が参加し、感染対策を徹底しながら準備を進めた。デザイン科の学生と教員も加わり、能登ヒバを素材に、波と手のひらをモチーフにして家全体を彫刻化する作品「いのりを漕ぐ」の制作を行い、全出展者 46 組中 8 位となる 9,508 人の来場者が訪れた。

4 業務運営の改善及び効率化に関する目標

〇学習に対する学生の需要や研究に対する社会の要請を踏まえ、継続的に検討を重ねてきた各科・専攻等の改革を、5 年度の新キャンパスへの移転を機に行うことを決定した。

教育研究組織の再編としては、5 年度より、デザイン科を視覚デザイン・製品デザイン・環境デザインの 3 専攻体制からホリスティックデザインとインダストリアルデザインの 2 専攻に再編し、大学院に映像コースを新設する。

〇学部・大学院の学生定員(入学時)の見直しについては、5 年度より、デザイン科の再編に伴い視覚デザイン専攻・製品デザイン専攻・環境デザイン専攻の各 20 名からホリスティックデザイン専攻 40 名・インダストリアルデザイン専攻 20 名に変更し、また、大学院絵画専攻内に映像コースを新設し 10 名から 14 名に増員することとした。

更に、工芸科においては、クラフト分野のユネスコ創造都市・金沢にある美術系大学としての特色を強化するため、学部 20 名から 30 名、大学院 9 名から 13 名に増員し、一方、芸術学専攻は学部 15 名から 10 名にして教育の質の強化を図ることとした。

|5 財務内容の改善に関する目標 |

〇企業や地方公共団体からの依頼について、社会連携センターにおいて内容と教育的な効果を確認し、産学連携事業を 13 件、地域連携事業を 12 件、連携協定を 1 件受託し、29,332 千円の受託研究収入を計上するなど、当初見込の 16,000 千円を上回る収入を得た。

また、受託内容については、これからの放送・メディア業界の方向性を考えた新たなサービスの提案や、新しい価値体験や生活を 豊かにするモビリティデザインの提案など、新技術を踏まえた未来志向の依頼に加え、コロナ禍による暮らしの変化に伴い、お弁 当・食品のテイクアウト容器のデザインの研究など美大ならではの機能性を重視した新しいデザインの提言を行った。

6 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標

〇一般財団法人大学教育質保証・評価センターによる大学機関別認証評価を受審し、学長を中心に自己点検・評価実施運営会議が作成した「点検ポートフォリオ」の提出、実地調査等を踏まえ、認証評価委員会より4年3月11日付で同センターの定めた大学評価基準に適合していると認定された。

同評価センターによる「点検評価ポートフォリオ」の分析(書面評価)及び実地評価の結果、「優れた点」として、教育課程を通じて身に付けた学びを実践させる活動を長期にわたり支援し、大学として地域連携・産学連携を推進していること、ならびに「平成の百工比照」事業の取組みによる特色ある研究活動が高く評価された。

また、「今後の進展が望まれる点」として指摘された事柄については、問題点を学内で共有し、カリキュラムマップの作成をはじめ とする改善に着手した。

7 その他業務運営に関する重要目標

〇市や設計業者と協議し、各専攻が所管となるエリアの諸室について、備品を配置した際の完成配置図を念頭に置きながら、電源の設置箇所や壁面の構造、床仕様などを固めた。また、共通エリア部分に関しては、学内全体の仕様の統一に配慮しながらも、「アートコモンズ」をはじめとする展示スペース等は、設置箇所毎に差別化を図るとともに、学生の視点に立った利便性のよいものとすることで、機能面やデザイン面において、情報発信の場にふさわしい仕様とした。

さらに、各専攻が要求していた購入予定備品については、事務局で必要性や金額等の精査を行うとともに、各専攻に対しても見直し 計画を求めることで、金沢市が求める予算範囲内に収めるなど、移転に向けての準備を整えた。

○3年度より、あらたに学生の英語能力試験受験費を成美会が補助する制度を設け、6名に交付した。

□ 項目別実施状況

大学の教育研究等の質の向上に関する目標(教育に関する目標)

(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標

中期目標

ア 学士課程教育にあっては、学部の教育目標及び各科・専攻の教育方針に基づき、教養教育と専門教育を行い、学位授与方針に定める汎用的な教養と専門的な造形力を修めた職業人を育成するとともに、学部を本学の教育拠点と位置づける。

中期計画	年度計画	業務実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価と異なる 評価委員会の評価 とその理由	添付資料 番号	
	ポリシー等の連関性について不断に検証する。	○本学の特別を 自らアリー (CP) 」、DPの場合に では、AP)」の3つのポリシは不 では、AP)」の3つのポリシは不 では、AP)」の3つのポリシは不 では、AP)」の3つのポリシは不 のでは (CP) 」、DPのにのの のでは (CP) 」、DPのにのの のでは (CP) 」、DPのにののの のののののののののののののののののののののののののののののののの	IV		1–1 1–2 1–3 1–4 1–5	1

中期計画	年度計画	業務実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価と異なる 評価委員会の評価 とその理由	添付資料 番号	
		ODP・CP・APに基では、 が大きのでは、 が大きのでは、 がいた美のでで、というでは、 では、 では、 における」というすりでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	Ш		1-2 1-3 1-4	2

中期計画	年度計画	業務実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価と異なる 評価委員会の評価 とその理由	添付資料 番号	
(4) 教養科目においては汎用的能力を培う教育をとはう教育を実践する。	は、汎用的能力や社会性を 培う教育を実践する。	○教養科目として「金沢の文化行政」「キャリアデザイン」「生涯学習概論」「博物館概論」といった実社会に近い内容を学ぶ科目を開講し、汎用的能力や社会性を培う教育を実践した。 また、「フレッシュマンセミナー」では新入生が大学での学び方を認識する導入教育と自己のキャリア形成を考え始める機会を提供した。 ○3年度より、社会学の立場からカルチュラルスタディーズを学ぶ「社会学I」、アートとグローバル化する犯罪やその統制の関係について学ぶ「社会学II」の2科目を新たに開講し、社会学系の科目の充実を図った。	Ш		2-1 2-2 2-3 2-4 2-5 2-6 2-7	3

						_
中期計画	年度計画	業務実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価と異なる 評価委員会の評価 とその理由	添付資料 番号	
各分野に要求される基礎的	科目においては、多様な思	○専門教育科目における基礎科目では、絵画・彫刻・工芸・デザイン・芸術学の学生がそれぞれの専門以外の実技科目を選択して他専攻の教員が垣根を越えて協働で開講する本学独自のものであり、高い学習効果を維持している。 ○その他、教員の得意分野を生かした、学生のための自由な学びの場である造形表現工房や、専攻必修よっていない基礎科目も他専攻の学生が学べるようにするなど、自由科目も充実させている。	Ш		3	4

中期計画	年度計画	業務実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価と異なる 評価委員会の評価 とその理由	添付資料 番号	
じた実践的な能力を身につ	科目においては、社会の第 一線で活躍する美術家やエ	○3年度も新型コロナ感染症の影響を受けたが、オンラインも活用しながら、著名な美術家や工芸家を招聘しての専門的な制作や素材を生かした制作を学ぶ授業、独立系デザイナーなどを招聘して映像制作での撮影方法、業界の仕組み、データからグラフィックを構築する授業等、実践的な経験を踏まえた演習を実施した。○招聘した講師は、日本画家の土屋禮一氏、映像作家の細田守氏、染色作家の福本繁樹氏、グラフィックデザイナーの廣村正彰氏、美術史家の北澤憲昭氏、工芸評論家の金子賢治氏など、100名を超えており、社会の第一線で活躍している人から直接指導を受けることで実践的な演習等の充実を図った。	Ш		4	5
	(加)社会連携事業 (産学連携・地域連携)を活用し、実社会の課題を通じて経験を重ねる特色ある教育を推進する。	○本学の有するデザインカを活かし、企業や地方公共団体との連携による産学・地域連携事業を実施し特色ある教育を継続して、産学連携事業においては、食品メーカーから受託した金沢らしいパッケージャーの提案やケーブルテレビからのこれからのモビリの提案やケーブルテレビからのこれが来のででは、からでは、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で	Ш		5–1 5–2	6

イ 大学院教育にあっては、造形芸術に関する高度な理論、技術及び応用を研究教授し、芸術の多様な領域で横断的に活躍できる高度専門職業人を育成するとともに、大学院を本学の研究拠点と位置づける。

中期計画	年度計画	業務実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価と異なる 評価委員会の評価 とその理由	添付資料 番号	
課程を、本学の研究拠点と 位置づけ、教育と研究との 高度で有機的、実質的な連 関を実現する。また、その	年、後期3年)の一貫制大学 院の整備、および美術工芸	○博士課程5年(前期2年、後期3年)の一貫制大学院の整備について、学長、教務学生担当理事、大学院担当審議会委員で協議し、大学院運営委員会において大学院改革の方向性について議論を進めた。 具体的には4年度実施を目指して、博士後期課程と同様に修士課程においても、実技指導における主たる研究領域の指導に加えて、他領域の指導を含む領域横断型の指導体制を可能とすることや、博士課程5年の一貫的な大学院教育へと繋がる理論系教員の指導を取り入れる新たな指導体制を整備した。	Ш		6-1 6-2 6-3 6-4	7

中期計画	年度計画	業務実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価と異なる 評価委員会の評価 とその理由	添付資料 番号	
院に相応しい、実技、理論 における多様で横断的な教 育研究の場を設け、学習需	加えて他領域の指導を柔軟 に取り入れ、領域横断型の	〇研究拠点としての大学院に相応しい領域横断型の大学院教育を実現するために、博士後期課程においては、主たる研究領域の指導に加えて他領域の指導を柔軟に取り入れ、他領域の教員を含む複数指導による教育と評価を実施した。 〇4年度実施を目指して、博士後期課程と同様に修士課程においても、実技指導における主たる研究領域の指導に加えて、他領域の指導を含む領域横断型の指導体制を可能とすることや、博士課程5年の一貫的な大学院教育へと繋がる理論系教員の指導を取り入れる新たな指導体制を整備した。 【再掲7】 〇博士後期課程の『4年度学生募集要項』において、研究指導資格審査に基づく各教員の主指導・副指導の資格を明記し、指導体制の厳格化を図った。			6-1 6-2 6-3 6-4	8
	実させ、大学院を中心に教	〇大学院改革を視野に入れて大学院専任制度を見直し、教育の更なる高度化のために、各専門領域の客員教授の充実を図った。 具体的には、2年度に引き続き3年度も、学長のガバナンスの下で客員教授の招聘予算を各科・専攻に配分し、実技系客員教授24名、理論系客員教授8名、計32名を招聘し、大学院を中心とする専門教育の高度化に努めた。	Ш		7	9

中期計画	年度計画	業務実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価と異なる 評価委員会の評価 とその理由	添付資料 番号	
	(I) 大学院生の要望を踏まえた学外の非常勤講師等を招聘し、実技と理論における領域横断型の共通授業を行う。	〇大学院運営委員会に大学院特別講義を担当するワーキンググループを設けて、大学院生の要望を踏まえた上で、11月29日に多摩美術大学教授で現代美術家の笠原恵実子氏による「いくつもの線が交わるところ」、4年1月20日に金沢21世紀美術館長の長谷川祐子氏にまる「新しいエコロジーとアート」と題した教育研究活動とした教育のよりと理論における領域を横断した教育のとした教育の企画による「内灘闘争」の記憶一」展が、博士後期課程学生3名、修士課程学生3名、油画専攻教員1名の連携のもと学外の3箇所に手見かりに「裏日本」から戦後を再考し、自分たちて開催した。この展覧会は「内灘闘争」の記憶・記録を明確した。「裏日本」から引き受けていく回路として手がかりに「裏日本」から引き受けていく回路としてデートの可能性を探ることを目的とするものでポジウムを行った。	Ш		8 9	10
	(オ) アカデミックジャパニーズを開講し、外国人留学生が日本語を使用して研究・制作に取り組むための教育を行う。	〇外国人留学生が日本語を使用して研究・制作に取り組むための「言語表現演習(アカデミックジャパニーズ)」を引き続き開講し、日本語教育環境の整備を図った。 修士課程の学生2名、及び本学の大学院進学を目指す研究生4名の計6名の留学生がこの講座を履修し、日本語によるプレゼンテーション能力の向上を図った。 〇留学生が一層日本語の語学力を養える環境を整備するため、4年度より日本語講座を正課外に開設するための準備を行った。	Ш		10 11	11

ウ 定められた学位授与基準、学位審査基準、成績評価基準を厳正に適用し、また不断に検証することによって、芸術系大学に相応しい教育の成果の測定指標を作成し、教育の質を保証する。

中期計画	年度計画	業務実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価と異なる 評価委員会の評価 とその理由	添付資料 番号	
	委員会を中心に、成績評価 の在り方を検証し、公平 性、透明性、厳格性の担保	○公平性、透明性の観点から、名科目の評価方法、 成後速やの段階別の評価基準をシラバスの受職別の評価を 一に疑議がある場合、 一は、 一は、 一は、 一は、 一は、 一は、 一は、 一は	Ш		12 13	12

						-
中期計画	年度計画	業務実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価と異なる 評価委員会の評価 とその理由	添付資料 番号	
め、芸術系大学としての本 学の特性を調査研究し、そ の特性に応じた教育成果の		〇博士学位審査について、学位授与基準に基づき公開による作品審査と口述試験を、いずれも学外審査員を交えて行い、学位取得者の社会的客観性・信頼性の向上に努めた。 〇3年度は学位申請者4名に対して、外部審査員を交え公開による作品審査と口述試験を実施し、審査委員による厳正な審査を行い、大学院研究科委員会での審議を経た上で学位の授与を行った。外部審査員は次のとおり。 ・東京藝術大学大学美術館准教授 熊澤弘氏・染色家 大阪芸術大学名誉教授 福本繁樹氏・泉屋博古館東京 館長 野地耕一郎氏・練馬区立美術館 館長 秋元雄史氏	Ш		14	13
	基準を踏まえつつ、審査の	〇大学院における課程を5年の博士課程とした上で、博士前期課程2年及び博士後期課程3年を区分し、このうち前期の2年を修士課程として取り扱うことを前提として、学位授与基準や学位審査基準を踏まえた審査の手続き等について、学長、教務学生担当理事、大学院担当審議委員で継続して協議を行った。〇大学院においては、内規である「金沢美術工芸大学美術工芸研究科(修士課程)の学位授与にかかる博士論文等審査基準について」と「金沢美術工芸大学美術工芸研究科(課程博士)の学位授与にかかる博士論文等審査基準について」のもとで、修了時における学生の達成度を確認した。〇4年度実施を目指して、博士後期課程と同様に修士課程においても、実技指導における主たる研究領域の指導に加えて、他領域の指導を含む領域横断型の指導体制を可能とすることや、博士課程5年の一貫的な大学院教育へと繋がる理論系教員の指導を取り入れる新たな指導体制を整備した。 【再掲7】	Ш		15–1 15–2	14

中期計画	年度計画	業務実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価と異なる 評価委員会の評価 とその理由	添付資料 番号	
	業後の就業調査、企業への	○各大学生の活動を表示を確認して、 「大学全体として情報を共生のの説明というでは、 「大学全体として情報を共生のでは、 「大学全体としてでは、 「大学生のでは、 「大学生のでは、 「大学生のでは、 「大学生のでは、 では、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 でででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 でででは、 でででは、 ででででは、 でででは、 でででは、 でででは、 でででででででででで	Ш		16	15

中期計画	年度計画	業務実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価と異なる 評価委員会の評価 とその理由	添付資料 番号	
	(オ) 卒業時・修了時の学生アンケートを実施し、その結果を分析して、教育成果の検証を行い、授業改善に活用する。	〇卒業生・修了生の意見を取り入れる仕組みとして、 を業・修了の定定ととを定したとのでないででは、 を業・修了のかけるととをに対して、 を業・修了のかけるででは、 を要性に対して、 を要性に対して、 を要性に対して、 を要性に対して、 を要性に対して、 をのかけるとともに、 をででなび、 をのかけるととも、 をででなびら、 をででなびら、 をででがいる。 をででいるがでは、 をででいるがでは、 をででいるがでは、 をでいるがでは、 をでいるがでのなどのでは、 をでいるがががいる。 とともに、 一行つ学とでは、 をでいるがでいるととも、 一行つ学をがいるとともに、 一行つ学をがいる。 のでは、 をでいるがでいました。 とともに、 一行つ学をはいる。 のでのでは、 をでいるがががいる。 はいるでは、 を考えることとといる。 ので、 ととといる。 のでいるがでいる。 とといるので、 とといるので、 とといるので、 とといるでは、 を考える。 のでいるがががいる。 はいるでは、 を考えることととした。 のでいては、 をでいては、 をでいては、 をでいては、 をををでいては、 をををでいては、 をををでいては、 をををでいては、 ををををでいては、 ををををでいては、 ををををでいては、 ををををでいては、 ををををををををでいては、 をををををををををををををををををををををををををををををををををををを	Ш		17–1 17–2 17–3 18	16

中期計画	年度計画	業務実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価と異なる 評価委員会の評価 とその理由	添付資料 番号	
	めに、アウトカム・アセス メントの策定に向けた基盤 を形成する。	〇教育成果の検証を行うための測定指標の必要性は十分に認識しているが、美術系大学の特性に則したものとすることが重要であり、その検討を継続的に行っている。 〇全学としては、在学生に対する受賞実績等の外部評価とともに、金沢21世紀美術館で卒業・修了制作展を開催して、卒業・修了時におけるDPの達成度の個展の開催や公募展出品ないては、卒業後の個展の開催や公募展出品ないでは、100%に近い就職率を重視して企業に対する就業状況のヒアリングによる検証、デザイン科については、100%に近い就職率を重視して企業に対する就業状況のヒアリングによる検証を行い、測定指標の策定に向けて、「中としての活動」の検証を行った。 〇大学院においては、内規である「金沢美術工芸大学美術工芸研究科(修士課程)の学位授与にかかる博士高の学育工芸研究科(である「金沢美術工芸大学主活研究科(である「金沢美術工芸大学大学工芸研究科(である「金沢美術工芸大学大学大品審査基準について」のもとで、修了時における学生の達成度を確認した。	Ш		1–5 15–2	17

大学の教育研究等の質の向上に関する目標(教育に関する目標)

(2) 教育の実施体制等に関する目標

中期目標

ア 教育拠点として位置づけられる学部教育、研究拠点として位置づけられる大学院教育において、それぞれの目標を達成するために必要な組織の見直しを行い、教員の適正配置を行う。

中期計画	年度計画	業務実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価と異なる 評価委員会の評価 とその理由	添付資料番号	
院改革に伴う組織改編に基 づき、教員の適正配置、定	理を行うとともに、新キャンパス移転に向けた組織改編を踏まえ、令和4年度の採用・昇任の選考を実施する。	〇教員の人件費の予算総額を念頭に置きながら、本学の「人事の大綱」の人的構成要件をはじめとする総合的な観点から教員の採用・昇任・配置の在り方を教育研究審議会で協議した。3年度は、工芸科1名の公募を行い、教員資格審査会、教育研究審議会の審議を経び鋳金コースの講師1名の採用を決定した。〇3年度の昇任人事については、准教授から教授へ5名、講師から准教授へ3名の昇任を教員資格審査会・教育研究審議会の審議を経て決定した。〇新キャンパス移転や美術工芸研究所の今後の展開を踏まえ、将来を見据えた教職員人事に取り組み美術工芸研究所及び芸術学専攻の教員配置転換を決定し配属した。また5年度から新設される大学院映像コースの教員1名の4年度後期からの採用を決定した。	Ш		19-1 19-2 19-3 19-4	18
	(イ)大学院教員指導資格審査 基準に基づき、指導資格審査 を実施する。	〇大学院指導資格審査の結果を踏まえて、博士後期課程の4年度学生募集要項において各教員の主指導・副指導の資格を明記するなど指導体制の厳格化を図った。 〇4年度採用者1名(工芸科1名)については、採用決定と併せ、本学の教員指導資格審査基準に基づく大学院指導資格審査を行い、指導資格を決定した。 〇大学院教員指導資格審査基準に基づき、申請者3名に対して博士主指導資格の審査を実施した。	ш		6–3	19

イ 学生に対する教育研究指導体制を強化するとともに、教育研究に必要な施設、設備等の充実・整備を 行う。

中期計画	年度計画	業務実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価と異なる 評価委員会の評価 とその理由	添付資料番号
外、学外での学習を支援す		○新文化の (1) (2) (3) (4) (4) (4) (5) (5) (6) (6) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7	IV		20 21 22-1 22-2 23-1 23-2

20

中期計画	年度計画	業務実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価と異なる 評価委員会の評価 とその理由	添付資料番号	
	(イ) 実習助手、ティーチング・アシスタントの配置を効果的に実施する。	〇実習助手については、教務委員会所管の助手を含め全ての科・専攻で合計35名を配置した。 〇ティーチング・アシスタントについては、大学院博士後期課程及び修士課程に在籍する学生合計93名を配置し、各自の専門分野の知識を生かして学部生の指導にあたった。	ш		24	21
	(ウ)学生の学習環境の充実を図るため、教育研究設備を点検・整備する。	○工芸研究科1・2年演習室のファンコイルが故障し取替が必要となったが、新キャンパスへの移転を控えていることから、新品の購入ではなく、ファンコイルの使用頻度が低い部屋から移設することで対応したほか、雨漏り等、設備の老朽化による不具合にも対応するなど、費用対効果も検証し、学習環境の充実を図った。 ○Wi-Fi接続環境を改善するため、現状の設備を活用した新しい接続環境(SSIDのステルスなし)を構築することで、学生の学習環境の改善を図った。	ш		25	22
	止措置を徹底した上で対面授 業を実施するとともに、オンラ	○新型コロナ感染症の影響を受けて、引き続き、エントランスや教室前など、校内各所への消毒液の設置などを行い、また教室やアトリエ内の三密を避けるため、一般教室の一部をアトリエに転用したほか、教室の収容人数の制限を行った。また、映像メディア室にも引き続きアクリル板を設置するとともに、スタジオなどへの入室制限を状況に応じて条件を変えるなど、学生への利便性を図りながら、感染防止対策を徹底した。○3年度も新型コロナ感染症の拡大に備えて、年度当初より、KANABI-Portalに、すべての授業のクラスルームを整備し、学生に対する連絡や情報提供ができる体制を整備した。3年度はほとんどが対面授業を実施できたが、KANABI-Portalは資料配付や学生への迅速な情報提供に活用された。また、すべての教員にZOOMのアカウントを付与するとともに、オンライン授業になる場合に支障が起きないように遠隔授業支援チームを維持し、学生に不利益が生じないよう対策を行った。	ш		20	23

中期目標 ウ 教員の資質向上を積極的に図るとともに、教育の方法や内容等について不断の見直しを行う。

中期計画	年度計画	業務実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価と異なる 評価委員会の評価 とその理由	添付資料 番号	
	いて、教育研究センターを	〇各学期毎に行う専攻毎の「授業記録」に、各教員のFD活動を記録することで、専攻内にとどまらず教育研究センターにおいても検証を行い相互評価の充実を図った。 具体的には、教育研究センターで議論を行い、3年度分の授業記録を専攻内の全教員に配布し、授業記録を共有化することで4年度の授業に活かすという「PDCAサイクル」を用いたシステム運用を継続し、授業改善を図った。 教育研究センターの委員の経験やノウハウを活用した相互の積極的な意見交換により、被評価者は違りした相互の積極的な意見での講評会の持ち方に関してれを参考に検討していくこととした。 〇3年度は教員特別研究として記録の再分析と他大学でのFD活動を参照し、新たな視座を得るよう研究を進め、その報告を論文としてまとめた。	Ш		26	24
ケートに基づく教員の授業	教員の授業改善計画書を作成、公開して授業改善を推	○授業の最終回にウェブアンケート記入の時間を確保するなど教員から働きかけることにより、回収率の向上に取り組んだ。 ○各教員及び各科・専攻でアンケートの集計結果を検討し、授業改善計画書を作成の上、学生目線での授業の改善に結びつけることができた。 例えばデザインⅢ(建築)の授業では、使用する段ボールの強度に関する指摘に対し、厚みの変更を検討するという具体的な回答が行われた。 なお、授業改善計画書は、学生が自由に閲覧できるよう、事務局窓口で公開した。	Ш		27	25

中期計画	年度計画	業務実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価と異なる 評価委員会の評価 とその理由	添付資料番号	
	員会、学生相談室及び事務局が連携し、また必要に応じて自己点検・評価実施運営会議等とも連携して、組織的な研修活動(FD·SD活動)を実施する。	OFD活動として2月25日に石川県障がい学生等共同サポートセンターの協力を得て「障害学生支援における合理的配慮の基本的大学 保健管理センター を表示を受ける に変して とって とって とって とって とって とって とって では できまれる とって の に は の の とって の とって の に は の の は の では で は の では で は の では で は の では で は で	Ш		28	26

大学の教育研究等の質の向上に関する目標(教育に関する目標)

(3) 学生への支援に関する目標

中期目標 ア 学習支援体制を検証し、学部教育と大学院教育のそれぞれに相応しい学習支援体制を構築する。

中期計画	年度計画	業務実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価と異なる 評価委員会の評価 とその理由	添付資料 番号	
(ア) 授業科目の履修に関する総合的な相談・支援体制を検証し、さらなる活用を進める。	務委員会と学生支援委員会	○教務委員会では、随時、休学者・退学者・留年者を含む単位未修得者について各科・専攻からの説明を求め、学生個々の状況の把握と共有化を図った上で、4年度以降も学生の履修状況を見守るとともに、全体的な授業の課題の分量や退学・休学の理由を更に分析していくこととした。 ○教務委員会・学生支援合同委員会を2月に開催し、4年度に向けての学生への支援について検討した。	Ш		28	27
(イ) 授業科目以外の課 外、学外の活動に関する 支援体制を検証し、充実 を図る。		○各研究室のオフィスアワーの活用については3年度は前後期ともに対面にて細やかな連絡や相談を継続して実施した。 ○学生相談室は学生の利用状況の増加に伴い、後期よりその開室時間を倍増し1日4時間とした。また合理的配慮については学生および教職員も分かりやすいように、学生便覧にその申請におけるフローチャートを示すとともに、2月に行われたFD研修においても学外から講師を招き合理的配慮の基本的な流れと教職員の役割・支援体制について学び、個々の学生の実情に応じて支援できる体制の充実を図った。 【再掲33】	Ш		18 29	28

中期計画	年度計画	業務実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価と異なる 評価委員会の評価 とその理由	添付資料番号	
		○引き続き、外国人非常勤講師によるイングリッシュヘルプセンターを開設し、留学など海外を目指す学生の指導と英語表現力の向上を図り、さらに4年度からは英語以外の語学も追加しKANABI語学教育センターとして発展させるように準備した。なお、新型コロナ感染症の拡大のため、前後期を通して全てオンラインで開講した。 ○3年度に採用した外国人教員によるネイティブな英語学習を行い、学生の英語表現力のレベルアップを行った。	Ш		11	29
		〇本学学生の英語能力向上を図るため、あらたに英語能力試験の受験費を補助するとともに成績優秀者に奨励金を交付する制度を設け、補助金を6名に、奨励金を1名に対し交付した。	IV		30-1 30-2	30
		○学生の個展・グループ展の開催については、学生展等開催交付金を47件交付し、併せてホームページ上での開催案内を行った。 また、公募展の多くが中止となるなか、公募展出品等事業補助金を56件交付し、学生の自主的な学外発表活動の支援を行った。 【再掲20】 ○学外展示施設であるアートベース石引では、新型コロナ感染対策を徹底したうえで展覧会を再開し、教員の助言のもと、個展・グループ展を10件開催した。	Ш		21 22–2	31

中期計画	年度計画	業務実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価と異なる 評価委員会の評価 とその理由	添付資料 番号	
	(か)地元の美術館・博物館 等における鑑賞を支援する とともに、金沢21世紀美術 館や国立工芸館との連携の 充実を図る。	○美術館・博物館等で開催される各種展覧会等の情報を、学内で積極的に発信・周知した。 ○学生に石川県内博物館施設の主きで開催される各種展覧会等の間で積極的に発信・周知の割引・無料パスを配付し、展示鑑賞等の機会の充実を対して表して、国立ととは、「国立とは、「国立とは、「国立工芸館・いしかわ・かなととは、力をは、の連携協のでは、では、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は	Ш		24-1 24-2	32

中期目標 イ メンタルヘルスを含む健康管理支援体制及び生活支援体制を継続的に検証し、充実させる。

中期計画	年度計画	業務実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価と異なる 評価委員会の評価 とその理由	添付資料 番号	
ス等について、全学的な	(ア)大学生活全般に関する相談指導に学生相談室で積極的に応じる。	○後期より学生相談室の開室時間を相談数に応じてこれまでの2倍の1日4時間に延長し相談業務を強化した。 ○□ナ禍での対応として、ホームページに学生に対応として、ホームでの学生に対応として、市し、中央の協力を随時呼びがかけた。 ○□ナーのコラムを随時呼びがかけた。 ○□ナーのコラムを随時呼びがかけた。 ○□カーの対応を関連を呼びがからでは、中央の協力を得て「障害学生支援についるの基本の大援を関連を表表をでは、一定の表面の表面の表面ができまりには、一定の関係を表示をでは、一定の関係を表示を関係を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を	IV		18 31	33
	ス講習会を開催し、支援の 充実を図る。	〇昨年度に続きコロナ禍のため、対面での学生ガイダンスに代わりホームページの相談室コラムで学生に対して随時情報発信を行った。 この中には、メンタルヘルスに関する話題も取り入れるとともに、月ごとに適宜更新することで、すべての学生に対して相談室の利用や活用を呼びかけた。	Ш		31	34

中期計画	年度計画	業務実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価と異なる 評価委員会の評価 とその理由	添付資料 番号	
(イ) キャンパス・ハラス メントに関する学生への 教育と教職員の研修を行 うとともに、防止体制を 検証し、発生防止を徹底 する。		〇学生便覧の「金沢美術工芸大学キャンパスハラスメントがイドライン」を年度初のオンラとに周知の上で、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次で	Ш		32-1 32-2	35
	(I) 高等教育の修学支援制度に係る授業料及び入学金の減免を実施する。	〇国の高等教育修学支援新制度により、学部生のうち、前期55名、後期47名、延べ102名に対して授業料減免を、10名に対して入学金減免を実施した。また、国の制度で対象外となっている大学院生に対しては、国の制度に準じ本学独自で減免制度を設け、前期11名、後期10名、延べ21名に対して授業料減免を、5名に対して入学金減免を実施した。〇引き続き、授業料の納期限の延長や分割納付も取り入れ、学生や学資負担者の負担軽減にも取り組んだ。〇これらの制度等は、新型コロナ感染症による影響をはじめとした諸事情により経済状況が悪化する学生にとって、安心して大学生活を送るために有効なものとなった。	Ш		33-1 33-2 33-3 33-4	36

中期計画	年度計画	業務実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価と異なる 評価委員会の評価 とその理由	添付資料 番号	
	(f) 大学独自の奨学金制度 や学生顕彰制度による効果 的な学生支援を推進する。	〇日本学生支援機構の「新型コロナウイルス感染症対策助成金」を活用した学生の購入を使用可能ない。 「一年をはいるパン・弁当等の購入をでは、本学内で 原売しているパン・弁当等の関学生700名に1人当たり 3,000円分を支給した。 「経済的な理由で修学継続が困難となった学生に給付金を支給する「緊急支とした。 「経済的な理由で修学継続が困難となった学生に給に引きたがはである。 「KANABIクリエィティーの当時では、公募展が表した。 「KANABIクリエィティーの当時では、一の一ルで優れたででは、一の当時では、一の大学を表彰した。 「大学内をした。 「大学内を表彰した。 「大学内を表彰した。 「関連を表彰にあたい、一の大学にあた。 「大学にあたい、一の大学を表彰にある、大学にあると、一の当のの一では、一の当時では、一の当時では、一の一の大学を表彰では、一の当時では、一の当時では、一の当時では、一の当時では、一の当時では、一の当時では、一の当時では、一の一の一の大学にある。 「大学によって、一の一の大学を表彰では、一の一の一の一の一の一の一の一の一の一の一の一の一の一の一の一の一の一の一では、一の一の一の一では、一の一の一では、一の一の一では、一の一の一では、一の一の一では、一の一の一では、一では、一のでは、一の	īV		1-5 34-1 34-2	37

中期計画	年度計画	業務実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価と異なる 評価委員会の評価 とその理由	添付資料 番号	
	(か) 私費外国人留学生に対して、本学独自の修学支援 を実施する。	〇優秀な私費外国人留学生を奨励するため、3年度から新たに「私費外国人留学生支援奨学金」の給付制度を創設し、修士課程入試成績が優秀であった留学生1名に対して、奨学金を給付した。	IV		35	38
(I) 学生代表と学生支援 委員会教員等との意見交 換を行い、学生支援の総 合的な充実に役立てる。	(も)学生の意見を直に聴取するために、教職員と学生との交流の場を設ける。	〇コロナ禍の授業、学生生活について、5月13日に、学長、教務学生担当理事、学生支援委員会委員長と、自治会執行部が出席し、オンライン会議を行った。 さらに7月15日、8月27日、9月9日、9月30日に、コロナ禍における美大祭の開催について教務学生担理事、学生支援委員会委員長と美大祭実行委員会に10月7日には学生支援委員会の教員を交え美大祭の実施に向けた検討を行った。 〇自治会要望書(生理用品備え付けに関する学生からの要望)を受けその内容を教育研究審議会で検討しまんの要望)を受けその内容を教育研究審議会で検討した。 〇教務委員会・学生支援合同委員会を2月25日に開催し、3年度の授業案内や履修登録をはじめ、オンラインを活用した教務の状況を共有するとともに、4年度に向けての学生への支援について検討した。	Ш			39

ウ 学部教育、大学院教育の相違や各科・専攻の個別的特性を考慮し、全学的なキャリア支援体制を構築する。

中期計画	年度計画	業務実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価と異なる 評価委員会の評価 とその理由	添付資料 番号	
科目の増設等、学生の	(ア)企業や事務所、工芸作家等の相手先の協力を得て、インターンシップの促進・充実を図る。	〇コロナ禍のためては大学育を大学生を大学である。 「学生育を力した。 「学生育を力した。」 「学生育を力した。」 「での実においてでは、 「では、では、 「では、では、 「では、では、 「では、では、 「では、では、 「では、では、 「では、 、 、 「では、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	Ш		36	40

中期計画	年度計画	業務実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価と異なる 評価委員会の評価 とその理由	添付資料番号
	(イ)学生の進路の実態を踏まえ、キャリア教育に関する科目の充実につとめる。	ODPに掲げると、 (大学のもいな) (大学の)	Ш		2-1 2-2 3 8

中期計画	年度計画	業務実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価と異なる 評価委員会の評価 とその理由	添付資料 番号	
	職等の促進に向けて、専攻	〇キャリア支援室は、その設置要綱に定めると表員には各専なの就職担当教員をあて全学横断的な進路を行った。 〇キャリア支援室が中心となり、地元企業の経営者を招き、2月に講演会を開催した。 具体的には、デザイン会社と建設設備の方を講師として、対学が開催した。 具体的には、デザイン会社と建設設備の方を講師として、割減会を通して学生が早い段階から県内の優良で、の講演会を通して学生が早いに、就職情報を得る大変有意義な機会となった。 地元企業の経営者を招いてのキャリアなどを知ると、地元企業の経営者を招いてのキャリトなどを知ると、地元企業の経営者を招いてのおれて、の一旦を記している。	Ш		37-1 37-2	42

大学の教育研究等の質の向上に関する目標(教育に関する目標) (4)入学者選抜に関する目標

中期目標

入学者受入方針を不断に検証し、これに基づいて学生の選抜を適切に行う。また、大学の入試広報を積極的・計画的に行う。

中期計画	年度計画	業務実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価と異なる 評価委員会の評価 とその理由	添付資料 番号	
ション・ポリシーの整合性		○入試委員会において、一般選抜及び学校推薦型選抜を検証し、ともにAPに基づいた選抜内容・方法であることを確認した。 確認にあたては、専攻別の入試記録を利用し、APとの関連性、出題、3年度入試からの改善点、今後の課題等を検証した。 継続前にもいまでは、受験者のは、学生の選抜を適切になが、対応がある。 の実技試験を重視する本学では、学生の選抜を適切にないまる。 の実技試験を重視する本学では、学生の選抜を適切することは極めている。 の実技は極めて重要させ、キュアルリリ入試に関することは極めを提出での入試に関する、大定事項を再である大学全体としての入試に関する決定事項を再はコロナ禍での入試となったが、面接の実施方法や受験生の動線、及一ズに入試を実施した。	Ш		1–4	43

中期計画	年度計画	業務実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価と異なる 評価委員会の評価 とその理由	添付資料 番号	
的に検証し、高大接続改革	ついて検証し、継続的な改善に努め、受験者の質の確保を図る。	○入試委員会において、今時間では、中期日程をでは、中期日程をでは、中期日程をでは、中期日程をでは、中期日程をでは、中期日程をでは、中期日程をでは、一般選抜の問題では、一般選抜の問題をできるが、他大学の入試日程、出願状況等の調整を最小限にとどめるため、はいては継続して、一般ででは、一般ででは、一般ででは、一般ででは、一般ででは、一般ででは、一般では、一般	Ħ		38	44

中期計画	年度計画	業務実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価と異なる 評価委員会の評価 とその理由	添付資料 番号	
		〇3年度一般選抜に引き続き、学校推薦型選抜及び大学院・研究生入試において、紙資料での出願方法を廃止し、インターネット出願システムを導入したことで、本学が実施する全ての入試区分がインターネット出願に切り替わった。これにより、志願者は24時間コンビニ等での考査料の支払いが可能となったほか、出願書類の記入に要する時間も短縮されるなど、利便性の大幅な向上が図られた。	īV		39-1 39-2 39-3	45
	(エ) 学部入試の合格作品の適 切な公開を実施する。	○多くの受験生に対し入試情報を発信するため、2年度に引き続きホームページ上においても合格作品を公開するとともに、オンラインによるオープンキャンパス時にも、各専攻から積極的にPRに努めた。	ш		40	46

中期計画	年度計画	業務実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価と異なる 評価委員会の評価 とその理由	添付資料 番号	
	開催するとともに、大学案 内パンフレットとホーム	〇3年度は、新型コロナ感染症の拡大の為、9月にオンラインオープンキャンパスを開催した。本学の教職員や学生のいますを発生の特別であるとに対し、本学の教職を発信するでは、一個では、一個では、1000年では	ш		41-1 41-2	47

大学の教育研究等の質の向上に関する目標(研究に関する目標) (1)研究水準及び研究の成果等に関する目標

中期目標

ア 芸術の分野において、地域の文化を振興し、また国際的な交流を促進する研究を行い、研究拠点を 形成する。

中期計画	年度計画	業務実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価と異なる 評価委員会の評価 とその理由	添付資料 番号	
域文化について、本学独自 の視点による高度な水準の	作成事業として、漆工・陶	○本学の美術工芸研究所では「平成の発展のため育業」を実施しており、金沢の地域文化の発展のが表展のが、金沢の地域文化の発展のが高いておりにおける。の3年度は、国立民族学博物館と連携協定に基づく、「平成の百工比照コレクションデータが、大阪では、国立民族学博物館と連携協定に基づく、「平域の百工比照コレクションで在ります。とともには、社会連携を関係を表して、社会連携を目的ないでは、では、高等教育におけるとともに、社会連携を制作を行った。の、のでは、本では、本では、本では、本では、本では、本では、本では、本では、本では、本	IV		42 43	48

中期計画	年度計画	業務実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価と異なる 評価委員会の評価 とその理由	添付資料 番号	
て、芸術・文化等に関する 国際的水準の研究に取り組		〇美術工芸研究所ギャラリーは、新型コロナ感染症の拡大による石川県緊急事態宣言および金沢市まん延防止等重点措置の適用期間中を除き、感染防止を徹底して開館し、学生や市民の制限付きの閲覧を可能としては、10月4日~11月12日に「平成の百工比照一染色の素材・道具・技法一」展、11月22日~12月24日に「平成の百工比照一陶磁の素材・道具・技法一」展を開催し、染色・陶磁分野の資料の特集展示と工芸技術記録映像の公開を行った。〇平成の百工比照コレクションの海外へ向けた発信のため、工芸技術記録映像のキャプションや解説の英訳に取り組み、今年度英語版の記録映像を完成させた。	īV		44 45-1 45-2	49
	芸術祭実行委員会との連携 協定に基づいて、奥能登地	〇2年度新型コロナ感染症の拡大により会期が1年間延期となった「奥能登国際芸術祭2020」は「奥能登国際芸術祭2020」は「奥能登国際芸術祭2020十」として9月4日から11月5日まで開催された。 珠洲市との連携協定に基づいて、本学の学生と教員の合同アートプロジェクトチームである「スズプロ」が参加し、感染対策を徹底しながら準備を進めた。デザイン科の学生と教員も加わり、能登ヒバを素材に、波と手のひらをモチーフにして家全体を彫刻化する作品「いのりを漕ぐ」の制作を行った。 〇第3回奥能登国際芸術祭が5年度に予定されており、4年度予算に準備経費を計上した。 【再掲65】	Ħ		46 47	50

中期計画	年度計画	業務実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価と異なる 評価委員会の評価 とその理由	添付資料 番号	
	(I) 大学の専門性を活かして、芸術分野における国際的水準の研究活動を行う。	○3年度より、美術工芸研究所に2名の教授が兼任として研究職として着任し研究を推進する仕組みを整えた。4年1月1日からは専任として、金沢美術工芸大学の基礎科目の基盤を担うとともに、さらなる研究の加速を目指していく。 ○10月には清華大学美術学院(中国)の国際大学シンポジウム「"ASK: Our Diverse World" 2021 Tsinghua International Conference on Art & Design Education」に本学からは5名がオンラインで参加し、学長が基調講演、工芸科の教員1名が講演を行った。 ○英国ノーサンブリア大学の研究課題「Women's leadership in designing social innovation: mutual learning in the Asia-Pacific」に、11月より教員が共同研究者として参加している。	ш		19-1 19-2 48	51
	点検・評価に基づき、基盤 研究の充実を図る。	○教員の日々の研究活動の成果について、学長・理事・教育研究審議会委員が2年度の研究成果報告書を基に点検を行った。 ○教育研究審議会において、研究費の配分の検証、審議、決定を行う仕組みを検討し、2年度までの研究成果を勘案して3年度の教員研究費を配分した。 ○新任教員の研究環境整備を支援するため、教員研究費10万円を追加配分した。 ○外部資金獲得を目指す教員の意欲を支援するため、科学研究費助成事業申請者に研究費8万円を追加配分した。	Ш		49	52
	若手教員の研究の高度化に 対し、効果的な教員研究費	〇教員研究費審査会において検討した結果、基盤研究費を十分に確保するため全教員に40万円を配分した。また、特別研究費に3件220万円、奨励研究費に13件375万円を配分することで、大学の特色となる研究、若手教員の研究の高度化及び基盤研究に基づいた発展的な個人研究を支援するなど効果的な研究費の配分を行った。	Ш		49	53

中期目標

イ 研究・調査の成果を体系的に蓄積し、国内外に対して広く効果的に発信・展開する。

Ī							ì
	中期計画	年度計画	業務実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価と異なる 評価委員会の評価 とその理由	添付資料 番号	
	ついて、その成果を効果 的、計画的に整備・蓄積		○教員の研究活動や在学生の公募展等の受賞情報を積極的に掲載するなど、引き続き、ホームページを活用し、積極的に情報を発信した。また、各科・専攻のフいる。 ○本学の研究成果物の保存と発信を目的に、機関リポットリを引き続き、本学所属の教員の情報発信のリットリを引き続き、本学所属の教員の情報発信のリットとして、前報といる。 ○3年度は、新型コロナパスを開催した。本学の教職員や学生による大学の支持をといて配け、大学の模擬での表には、大学の模擬で表した。本学の教職員や学生の計算を表には、大学の模談方の最新情報を発信する貴重な機会となった。 【再掲47】	Ш		41-1 41-2	54

中期計画	年度計画	業務実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価と異なる 評価委員会の評価 とその理由	添付資料 番号	
		〇金沢21世紀美術館市民ギャラリーにおいて、教員40名の出展による「教員研究発表展2021」を開催し、5,519人が来場した。顔写真入りのキャプションを用いて、教員とその研究成果をわかりやさく紹介した。新型コロナ感染症について予断を許さない状況下にあったが、本学の教育と研究の在り方を市民や芸術を志す方々にとって深く理解していただく貴報発信の場と捉え、継続開催をした。展覧会開催時点とに鑑み、感染症に関する規制が解除されていたことに鑑み、感染症に関する規制が解除されていたことに鑑み、感染拡大防止策を講じつつ、出展教員による作品解説も実施した。 〇作品集『金沢美術工芸大学 教員研究発表展19-21』を制作した。	Ш		50	55
	査研究を継続するととも	〇柳工業デザイン研究会と本学との間で交わされた合意書に基づき、柳宗理の作品・資料をより一層有宗理デザインミュージアム(仮称)」の整備に向いま本でリーキンググループを設け、現地調査を行い基本の別による。の柳宗理記念デザイン研究所では、寄託作品調査の基盤情報の取りまとめ及びその成果の展示やウェブックへの公式フェイスブックページでの展覧会の情報や来客者の情報を随時発信した。の小宗理記念デザイン明常とき、感染防止を徹底してよる石川県緊急事態宣言および金沢止を徹底した。「10月30日から3月18日まで、第二企画「柳宗理ステーショナリーデザイン」を開催した。	Ш		51	56

中期計画	年度計画	業務実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価と異なる 評価委員会の評価 とその理由	添付資料 番号	
	教育資料、寄託資料について、継続的にデータベース化の充実を図る。	〇本学所蔵の美術品、教育資料及び学生買上作品を学内外からデータの検索が可能な「所蔵品データベース」により公開した。 所蔵品件数は芸術資料6,691件、学生買上資料1,164件となった。 〇キャンパス移転に向けて、所蔵する学生買上作品の調査を各専攻に依頼しデータを取りまとめ、さらなる追跡調査を専攻に依頼した。	ш		43	57
		〇美術工芸研究所ギャラリーは、新型コロナの感染拡大による石川県緊急事態宣言および金沢市まん延防止等重点措置の適用期間中を除き、感染防止を徹底して開館し、学生や市民の制限付きの閲覧を可能とした。〇企画展として、10月4日~11月12日に「平成の百工比照一染色の素材・道具・技法一」展、11月22日~12月24日に「平成の百工比照一陶磁の素材・道具・技法一」展を開催し、染色・陶磁分野の資料の特集展示と工芸技術記録映像の公開を行った。 【再掲49】	Ш		44 45–1 45–2	58

大学の教育研究等の質の向上に関する目標(研究に関する目標) (2)研究実施体制等に関する目標

中期目標

ア 特色ある研究活動を推進するため、研究の実施体制や環境の整備を行い、実技と理論とが連携する 研究体制を構築する。

中期計画	年度計画	業務実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価と異なる 評価委員会の評価 とその理由	添付資料 番号	
入をはじめ、研究の実施体	するとともに、研究環境の 検証・整備を図る。	○3年度にサバティカル制度を利用した教員は、一般財団法人有田・井上文化財団、NPO法人奥能登日置らいにおいて研究を行い、芸術学専攻の担当授業内容における視座を得るとともに、今後の研究方針・研究計画を明確化するなど活躍の場を拡げた。 ○4年度に向け募集を行い、教員1名が申請した。学長と学長補佐が面接し、研究計画の妥当性を確認して、サバティカル研修を認めることとした。	Ш		52	59

中期計画	年度計画	業務実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価と異なる 評価委員会の評価 とその理由	添付資料 番号	
	究体制を整備し、特色ある	〇3年度博士後期課程において、主たる研究領域の指導に加えて他領域の実技及び理論系の教員を柔軟に取り入れ、実技と理論が連携する研究体制を整備し、審査に基づく各教員の主指導・副指導の資格を図った。副指導の厳格化を図った・副指導の一大ので、理論系の研究者や論が表別をといるもので、理論系の研究者を書き、といるは、大の実技と理論が表別を担け、大の実技と理論が、関いの記憶を関係を関係を関係を関係を関係を関係を関係を関係を関係を関係を関係を関係を関係を	Ш		9	60

中期計画	年度計画	業務実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価と異なる 評価委員会の評価 とその理由	添付資料 番号	
	誌、電子ジャーナル等の継 続的な整備を行う。	〇全学で活用する共通図書と各科・専攻等で活用する専門図書に分けて計画的に取得し、教育研究資産の充実境整備を推進した。 〇輸入専門図書及び美術学術書の購入においては、輸入書店・出版社により、本学にとって必要性の高い資料を見極めることとと、の容料を見極めることととれて、分野に偏りのの別選書を行ってない選書を経続した。 〇主要な学術し、教育・研究の表におけるの表にの主要な学術し、教育・おけるの表におけるの表におけるの表に、の主要な経続した。 〇主要な経続し、教育・で全球ができるにおけるの利用を可能との表により、大学の上名N環境下の全パソコンからの利用を専門性の表接した。 「学内LAN環境下の全パソコンからの利用を専門性の表接した。」とに、美術やセスをを強した。 「学の上の方式の方式を変ができる。」の国立国会図書館がデジタル化して、デジタルし、絶版等の理由で入手が困難な資料について、デジタルし、、約150万点の資料の利用が可能となり、オンラインによる迅速な資料提供を実現した。	IV		53	6-7

中期目標 イ 研究の質を向上させるため、研究の方法や内容・成果に対する評価体制について不断に見直す。

中期計画	年度計画	業務実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価と異なる 評価委員会の評価 とその理由	添付資料 番号	
に対する点検・評価方法を	対する点検・評価の見直しに取り組み、評価の結果を研究の改善に活かす。	○教員が教育時間では、 を設定し、教員評価と関連を行う。 を設定し、教員評価と関連を行う。 を設定した。 が教員評価を行う教員には、 の教員には、 の教員には、 の教理を表した。 の教理を表した。 の教理を表した。 の教理をのかった。 の教育ので、 を教育ので、 を教育ので、 を教育ので、 を教育ので、 を教育ので、 の教育ので、 を教育ので、 の教育ので、 の教育ので、 の事活を、 の事活を、 の申請のので、 の申請のので、 の申請のので、 ののので、 ののので、 ののので、 ののので、 ののので、 ののので、 のので、 ののので、 のので、	Ш		49	62

大学の教育研究等の質の向上に関する目標(その他の目標) (1) 社会との連携や社会貢献に関する目標

中期目標

地域に根ざした公立大学として、社会との連携をさらに推進するとともに、教育研究の成果を積極的に社 会に還元する。

<u> </u>						
中期計画	年度計画	業務実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価と異なる 評価委員会の評価 とその理由	添付資料 番号	
自治体との連携を通して、	加をはじめ、教員による金	〇3年度は、金沢市景観審議会、金沢市屋外広告物審査会、金沢市文化財保存活用地域計画協議会、石川県景観審議会委員等の委員として教員延べ62名が積極的に参画することで、自治体の政策形成に寄与するとともに、社会における本学の役割を多方面に発信した。	Ш		54	63
		〇社会連携センターにおいて、大学が取り組む意義の有無を精査した上で、はいて、いて各自治体と連携事業を実施しては、新規に「ゼロカースを実施している。 〇金沢市との連携事業としては、新規に「ゼロカースを実施しては、新規に「ゼロカースを変施の連携事のでは、新規に「ゼロカースを変形するがないででは、一方公共のでは、がから、では、できながが、できないができませんが、できないができません。の知れた、では、できないが、できまれていまれて、できまれていまれていまれていまれていまれていまれていまれていまれていまれていまれてい	Ш		5–1 47	64

中期計画	年度計画	業務実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価と異なる 評価委員会の評価 とその理由	添付資料 番号	
		〇2年度新型コロナ感染症の拡大により会期が1年間延期となった「奥能登国際芸術祭2020」は「奥能登国際芸術祭2020」は「奥能登国際芸術祭2020」として9月4日から11月5日まで開催された。 珠洲市との連携協定に基づいて、、専攻を超えた学生と教員の合同アートプロジェクトチームである「スプロ」が参加し、感染対策を徹底しながら準備を追めた。デザイン科の学生と教員も加わり、能登ヒバを素材に、波と手のひらをモチーフにして家全体を彫刻化する作品「いのりを漕ぐ」の制作を行い、全出展者46組中8位となる9,508人の来場者が訪れた。 〇第3回奥能登国際芸術祭が5年度に予定されており、4年度予算に準備経費を計上した。	īV		47	65
して、企業等からの受託研		〇企業、地方公共団体からの依頼により、連携した事業は産学連携事業13件、地域連携事業12件、連携協定1件となり、延べ252名の学生が参加した。事業は教育プログラムとして実践し、学生は実社会の課題を通して経験を重ねることができた。その成果の一部をオンラインオープンキャンパス等で公開し、本学学生のスキルの高さをアピールした。2年度に引き続きしいのき迎賓館で開催した「Visionary thinking」展では企業と連携し研究に取り組んだ学生が新しい発想による商品のプレゼンテーションを行った。	Ш		5-1 5-2	66

中期計画	年度計画	業務実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価と異なる 評価委員会の評価 とその理由	添付資料 番号	
(ウ) 他大学や各種研究機関、美術館等と連携して、研究を推進する。	て、高等教育機関や研究機	〇芸術系大学コンソーシアムと文化庁の共催による「芸術系教科等担当教員等研修会」については本学は2年度の振り返りと、3年度の実施方法の検討と4年度に向けての準備に参加した。 〇3年度は、平成の百工比照を活用した学術研究を推進するため、国立民族学博物館と連携協定に基づき、「平成の百工比照コレクションデータベースを基に、高等教育におけるデータベースの在り方及び活用手法について検証するとともに、社会連携事業と連動さる研究」を推進し、高等教育教材(映像)の制作を行った。 美術工芸研究所ギャラリーに導入されたデジタルサイネージタッチパネルで平成の百工比照の全資料を対象とする検索システムを2年度より稼働させている。 【再掲48】	ш		42	67
	可能性に関する研究とその	〇2年度は新型コロナ感染症の拡大により、これまで毎年開催してきたホスピタリティアート・プロジェクトは中止となったが、3年度は、これまで院内で行っていたアートギャラリーを、インターネット上にギャラリーを開設し、多くの参加者から作品を見ていただくという方法で開催した。	ш		55	68

中期計画	年度計画	業務実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価と異なる 評価委員会の評価 とその理由	添付資料 番号	
	象に実施される金沢工芸こ	○3年4月から4年3月までの隔週土曜日に、教育プラザ富樫、俵スタジオ等において、「第7期1年目金沢工芸子ども塾」(定員20名)を開催した。5~7月が基礎的なデザイン、7~8月が金工、8~9月が陶磁、10月が染織、11~12月が漆芸、4年1~2月が工房見学を交えた体験を行った。 ○3年度より新たに漆芸を加え、より多くの体験を提供できるようにした。	Ш		56	69
	て、地元の高校の生徒を対	〇3年度も、2年度と同様に市立工業高等学校(1年生)、県立金沢辰巳丘高等学校(2年生)、県立工業高等学校(1年生)の全3校を予定していたが、新型コロナ感染症の影響を受け中止とした。 元年度終了時のアンケートでも継続を希望する生徒が多かったため、今後の新型コロナ感染症の状況を踏まえ、高校側とも協議を行い4年度の実施方法などの検討を行った。	ш			70
		〇8月に教員免許更新講習を開催した。4名の参加者があり、本学から4名の教員が講師を務めた。教員免許更新講習については、廃止が決定されているが、教育研究審議会で検討し、4年度については開催の方向で準備することとした。	Ш			71

中期計画	年度計画	業務実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価と異なる 評価委員会の評価 とその理由	添付資料 番号	
	理記念デザイン研究所を大	〇アートベース石引では、10月1日より、14日間以内の展示に限り、感染予防を行った上での使用を再開した。 〇柳宗理記念デザイン研究所は新型コロナ感染症の拡大による石川県緊急事態宣言および金沢市まん延防止等重点措置の適用期間中を除き、感染防止を徹底して開館し、学生や市民の制限付きの閲覧を可能とした。3年10月30日から4年3月18日まで、ミニ企画「柳宗理ステーショナリーデザイン」を開催し、4年3月25日から7月25日までミニ企画「柳宗理の眼×日本の道具」を開催している。 【再掲56】	Ш			72
	て、その利活用に関する検	〇柳工業デザイン研究会と本学との間で交わされた合意書に基づき、柳宗理の作品・資料をより一層有効に活用するために、市と協議を行い「金沢美大柳宗理デザインミュージアム(仮称)」の整備に向けて学内にワーキンググループを設け、現地調査を行い基本配置プランなどを検討している。 【再掲56】	Ш			73

中期計画	年度計画	業務実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価と異なる 評価委員会の評価 とその理由	添付資料 番号	
		〇コロナ (本)	Ш		5-2 46 57-1 57-2 57-3 57-4	74

大学の教育研究等の質の向上に関する目標(その他の目標) (2) 国際化に関する目標

中期目標

海外の大学との交流など、学生や教員による国際交流事業を展開する。また、留学生を積極的に受け入 れる。

中期計画	年度計画	業務実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価と異なる 評価委員会の評価 とその理由	添付資料 番号	
流協定を結ぶ大学等との連	て、教員・学生の派遣・受 入を行い、連携事業を推進 するとともに、アジア諸国	〇3年度は新型コロナ感染症の拡大により、交流協定締結校との教員・学生の派遣・受入を中止したが、オンラインでの交流を継続した。 〇2年度に受け入れ予定であったゲント王立美術アカデミーからの交換留学生2名を受け入れることを決定した。 〇在日本ベルギー大使館で開催された「ベルギーへの留学2021」に教員が参加し、今後の留学生交流について意見交換を行った。 〇10月には清華大学美術学院(中国)の国際大学シンポジウム「"ASK: Our Diverse World" 2021 Tsinghua International Conference on Art & Design Education」に本学からは5名がオンラインで参加し、学長が基調講演、工芸科の教員1名が講演を行った。 【再掲51】 〇10月には国立台湾芸術大学設立66周年式典へ学長と学長補佐がオンラインで参加した。			58	75

中期計画	年度計画	業務実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価と異なる 評価委員会の評価 とその理由	添付資料番号	
	開拓に向けた調査を進め る。	○3年度は新型コロナ感染症の拡大により、学生の海外派遣と教員の移動を伴う調査を中止したが、収束を見据え、欧州圏における新たな交流校として、デンマーク王立美術アカデミーと連携協定締結内容を確認し、締結を行うことに合意した。引き続きエディンバラ大学、グラスゴー美術学校との連携協定締結に向けた協議を進めている。	ш			76
		〇3年度はコロナ禍で入国制限が続く中、オンラインと対面での講演会を柔軟に取り混ぜながら、国内に在住する外国人のほか、海外での活動経験のあるキュレーターや作家、研究者を講師として招聘し、海外作家講演会を以下のとおり行った。 ・7月29日 牟田陽日氏(日本・陶磁作家)対面・10月29日 ルーベン・キーハン氏(オーストラリア・キュレーター)オンライン・11月16日 レベッカ・ジェニスン氏(京都清華大学名誉教授)対面	Ш		59-1 59-2 59-3	77

						-
中期計画	年度計画	業務実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価と異なる 評価委員会の評価 とその理由	添付資料 番号	
		○3年度は新型コロナ感染症の拡大により、学生の海外派遣と教員の移動を伴う調査を中止したが、収束を見据え、欧州圏における新たな交流校として、デンマーク王立美術アカデミーと連携協定締結内容を確認し、締結を行うことに合意した。引き続きエディンバラ大学、グラスゴー美術学校との連携協定締結に向けた協議を進めている。 【再掲76】	ш			78
		〇金沢の文化的景観を形成し大切な歴史遺産である 「金澤町家」を、海外等で活躍するアーティストが、アートを用いた情報発信を行う場として活用する「アーティスト・イン・レジデンス」の実施に向け準備を進めた。 町家改修のハード面においては、三谷産業株式会社と定期的な協議を行い、居住性や機能面に配プトとともに、施設の整備方針や使用するのコンセプトの高向も設計業者に伝えることで、円滑かつ適切に整備工事を完成させることができた。 一方、運用方法等のソフト面においては、新たにコーディネーターと契約を行い、管理体制や募集ストローディネーターと契約を行い、管理体制や募集ストの招聘や展示等に向けての準備を進めることができたの招聘や展示等に向けての準備を進めることができた。	Ш		60	79
	る本学独自の公開講座を開	○3年度は、新型コロナウイルスまん延防止の水際対策で、海外からの入国が厳しく制限されている中で、外国人留学生を対象とする本学独自の公開講座の開催は行わなかったが、外国人留学生の日本語力向上のための授業「アカデミックジャパニーズ」を継続して開講している。 ○留学生が一層日本語の語学力を養える環境を整備するため、4年度より日本語講座を正課外に開設するための準備を行った。【再掲11】	Ш		10 11	80

中期計画	年度計画	業務実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価と異なる 評価委員会の評価 とその理由	添付資料 番号	
	(ギ)既存制度の活用も含め、 留学生受入れの体制を検討 し、研究生制度の活用・充 実に努める。	○本学の大学院への進学を目指す新卒者、既卒者、社会人、外国人留学生を対象に、前期と後期の研究生を2回受け入れた。前期は6名(うち、外国人留学生3名)後期は2名(うち、外国人留学生1名)を受け入れた。なお、合計8名のうち4名が外国人留学生であり、コロナ禍の難しい状況の中、最大限の対応を行った。○研究生の受入れに際しては、担当教員が「研究指導計画書」を作成して指導を行い、研究生が研究期間終了時に提出する作品または論文の評価においても、「研究生作品又は論文等判定結果報告書」の提出を義務付けることで、研究の指導内容及び評価の透明化を図り、外国人留学生に対する教育の質の向上に努めた。 ○また、研究生受け入れに関する問い合わせへの対応を丁寧かつ積極的に行っている。 ○また、研究生受け入れに関する問い合わせへの対応を丁寧かつ積極的に行っている。 ○また、研究生受け入れに関する問い合わせへの対応を丁寧かつ積極的に行っている。 ○本情を行った。【再掲11】	Ш		11	81

業務運営の改善及び効率化に関する目標 1 組織運営の改善に関する目標

- (1) 運営組織の改善に関する目標

中期目標

社会情勢の変化に迅速かつ的確に対応するとともに、自主自律した大学運営を行うため、理事長(学長) の指導力の下、教職員による柔軟で機動的な大学運営を行う。

中期計画	年度計画	業務実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価と異なる 評価委員会の評価 とその理由	添付資料 番号	Ţ
るガバナンス体制を充実さ	制を充実させるために、学 長裁量による経費の確保に	〇学長によるガバナンス体制や指揮権の強化を図り、非常勤講師予算を学長裁量経費として確保した。 30年度にルール化した学生数に基づく算出方法をもとに、各専攻に対して透明且つ効率的な予算配分を継続した。 また、学内において積み立てられた教育研究基金や決算時において金沢市より認められた目的積立金を学長裁量経費として確保した。 〇新キャンパスへの移転を見据えた大学院教育の強化の一環として、幅広い分野で活躍している客員教授を招聘し、充実した教育環境を整えた。 〇新キャンパスにおける共通工房の運用・管理や必要備品の調整等に関して、学長の主導の下で機能性と公平性に留意し検討を行った。 〇新型コロナ感染症対策としてポータルの開設、オンライン授業の構築、オンライン支援チームの確保等を継続することができた。	Ш	7		82
(イ) 理事会、経営審議会、 教育研究審議会の連携を密 にし、学内運営の強化を図 るとともに、教授会、研究 科委員会を通じて教職員間 の情報の共有化を推進す る。	育研究審議会の連携を密に し、大学運営の強化を図 る。	〇2年度に引き続きコロナ禍のため、例年行っていた入学式・卒業式及び開学記念懇親会等での理事会や経営審議会の外部委員の招聘は見送ったが、教育研究審議会委員との意見交換の場を設けず、定例の理事会、経営審議会の開催時に、授業の質の確保や学生の生活資金に対する支援などのコロナ関連予算及びその内容についてさらなる情報共有に努め、連携の強化を図った。	ш			83

中期計画	年度計画	業務実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価と異なる 評価委員会の評価 とその理由	添付資料 番号	
	通じた教職員間の情報の共 有化を推進する。	○教授会、研究科委員会を通じて学内の意見や情報を 共有するとともに、各科・専攻の総括担当教員等が成 美会(保護者会)の会員向けに教育や進路の現状報告 を取りまとめて情報を共有した。 ○新キャンパスへの移転に向けて、教員が一堂に会す る教授会懇談会などを通して、現在の進捗状況や今後 の方針などについて、学長より説明を行い学内におけ る情報共有を徹底した。 ○特に、新キャンパスにおける必要な備品等の施設整 備においては、困難な各専攻との調整も円滑に行うこ とができた。	Ш			84

業務運営の改善及び効率化に関する目標

- 1 組織運営の改善に関する目標
 - (2) 教育研究組織の見直しに関する目標

中期目標

特色ある教育研究を推進するとともに、学習に対する学生の需要や研究に対する社会の要請を検討し、教育研究組織について計画的な見直しを行う。

中期計画	年度計画	業務実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価と異なる 評価委員会の評価 とその理由	添付資料 番号	
て、科・専攻の編制、学生 定数、教員定数等について	や研究に対する社会の要請	〇学習に対する学生の需要や研究に対する社会の要請を踏まえ、継続的に検討を重ねてきた各科・専攻等の改革を、5年度の新キャンパスへの移転を機に行うことを決定した。教育研究組織の再編としては、5年度より、デザイン科を視覚デザイン・製品デザイン・環境デザインの3専攻体制からホリスティックデザインとインダストリアルデザインの2専攻に再編し、大学院に映像コースを新設する。 〇元年度より客員教授の増員を図り大学院を中心とする専門教育の高度化に努めたが、2年度に続き3年度もコロナ禍により移動等の制約が強いられたが、オンラインでの授業を併用し、各専攻が調整を図ることで教育の質の確保に努めた。	Ш		61-1 61-2 61-3	85

中期計画	年度計画	業務実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価と異なる 評価委員会の評価 とその理由	添付資料 番号	
	見据えて、学部・大学院の	○学習に対する学生の需要や研究に対する社会の要請を踏まえ、継続的に検討を重ねてきた各科・専攻・ を決定した。 教育研究組織の再編としては、5年度より、デザイン科を視覚デザイン・製品デザイン・環境デザインがストリアルデザインの2専攻に再編し、大学院に映像コースを新設する。 【再掲85】 ○学生定員(入学時)の見直しについては、5年度より、デザインの4時でがある。 【再掲85】 ○学生定員(入学時)の見直しについては、5年度より、デザイン専攻・の見直しについては、5年度より、デザイン専攻の各20名からボザイン専攻・オンダストリ専攻・カンデザイン専攻・オンダ院に映像コースを新設し10名から14名にした。 更に、エ芸科においては、クラフト分野のユネを名ととした。 更に、エ芸科におるを30名から10名にしずするととした。 東に、カラととの第一次を第20名があら10名には するため、学部20名が多ことと院9名から13名に増 育の強化を図がイン科等の改革にあわせ、教務検討 育の質からのデザイン科等のな単にあわきまえて改定案を作成した。 【再掲1】	IV		61-1 61-2 61-3	86

業務運営の改善及び効率化に関する目標 1 組織運営の改善に関する目標

- (3) 人事制度の改善に関する目標

中期目標

ア 大学の特性に即した柔軟で弾力的な人事制度を運用することによって、大学運営や研究教育を効果 的かつ効率的に推進する。また、教職員の研修制度の充実を図る。

中期計画	年度計画	業務実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価と異なる 評価委員会の評価 とその理由	添付資料 番号	
(7) 法人職員の採用計画及び昇任計画の策定を行う。 (イ) 教育研究活動の質の向上のために、多様で柔軟な教員人事制度を検討する。	で柔軟な教職員の配置に努める。	○3年度については、美術科彫刻専攻においては従来の枠を超えメディアアート系の博士号を持つ作家を准教授として採用し、芸術学専攻では芸術評論と表現活動を併せ持つ研究者を講師として採用した。また、デザイン科視覚デザイン専攻ではファッション分野の豊富な実績を有するデザイナーを准教授ターを講師として採用した。加えて、一般教育等ではネイティブな英語力の強化を目指し、外国人講師を採用するなど、教育研究活動の質の保証・向上に取り組んだ。○4年度採用教員については、工芸科において指導経験が豊富で専門知識に精通する若手の作家を講師として採用することとした。	Ш		19-2 19-4	87

中期計画	年度計画	業務実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価と異なる 評価委員会の評価 とその理由	添付資料 番号	
	を図るため、教職員を学外	〇近年相談件数が増えている学生のサポート体制を強化するため、学生相談を担当する職員を発達障害者等相談支援従事者育成研修(上級)に派遣するととも育成研修会に参加した。また、障害者支援大学長連絡会議に教務学生担当理事が参加した。〇認証評価を受審するにあたり、大学教育質保証・評価センターが主催する3回の質保証研究会(オンライン)へ、学長補佐と事務担当者2名が参加した。IDE大学協会主催の大学セミナーへ事務担当者2名が参加した。〇合理的配慮の基本的な考え方と支援体制についての研修を教職員に対し実施した。〇3年度は実務を中心とした29件の研修に、延べ198名の教職員が参加し、資質向上を図った。	Ш		62	88

中期目標

イ 教職員の評価制度を不断に見直すことによって、教職員のモチベーションを高め、教育研究活動の活性化を図る。

						_
中期計画	年度計画	業務実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価と異なる 評価委員会の評価 とその理由	添付資料 番号	
(7) 教職員の評価制度を不断に検証、改善し、資質や能力の向上等につなげる。		〇職員個々の目標設定の自由度と、目標管理の責任を高めた目標管理方式による職員評価制度を実施しており、3年度も管理職が個々の法人採用職員の業務の進捗状況の確認や、目標到達度の達成度合いを判断する上で、適切な指導やタイムリーなアドバイスを実施するなど有意義に活用できた。 〇職員評価制度の効果・質を更に高めるために、事務局内の全体会議を定期的に開催し、個々の職員の業務進捗状況を共有することで、新型コロナ感染予防対策、ワクチン接種等、予定外の事務にも円滑かつ的確に対応できた。	ш			89
		〇「目標・自己評価シート」については、年度当初の目標設定、年度末の自己評価というサイクルが定着しており、業務の自由度・自立度を重視した教員評価を行う上で、適切・妥当に運用された。実施にあたっては、年度当初に「教育活動」「研究活動」「大学運営」「社会貢献」についての目標を全教員が提出した上で、年度末に目標達成状況と達成度を報告し、それを学長が点検・検証することにより、教員個々が改善に努めた。 〇3年度昇任候補者決定において、同シートの今後の教育や大学運営に対する考え方を学長面接の際に確認を行い、昇任決定の参考とした。	Ш		63	900

業務運営の改善及び効率化に関する目標 2 事務等の効率化・合理化に関する目標

中期目標

法人の運営に資するため、事務等の適正な効率化及び合理化を行うとともに、労働環境の整備を図る。

中期計画	年度計画	業務実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価と異なる 評価委員会の評価 とその理由	添付資料 番号	
	るため、学生対応事務の改	〇学生に向けた各種掲示、事務連絡等をウェブ上で閲覧できる仕組み(KANABI-Portal)の掲載情報の充実や可読性の向上などに努めた。 具体的には、就職情報、授業料減免、講演会のお知らせ、他機関からの案内などを追加し、全学生に対し迅速に情報提供できるよう利便性を向上させた。 〇窓口で使用する各種届出用紙の様式や案内表示を適宜見直し、学生がよりわかりやすく手続きができるよう改善した。	Ш			91
	(イ)教務手続きをオンライン 化し、学生の利便性向上と 事務の効率化を図る。	OKANABI-Portalからの履修登録手続きを本格運用し、インターネット上でのシラバス閲覧に併せて、手続きをオンラインで完了できるようにした。 〇オンラインによる受講科目の連絡・課題提出を可能にするGoogle Classroomのセットアップ(約700件)をプログラム化し、手作業での業務を改善した。 〇掲示板機能、履修登録、成績判定などを一つのプラットフォームで実現するシステムの導入の検討を行い、4年度以降の導入計画を策定した。	ш			92

中期計画	年度計画	業務実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価と異なる 評価委員会の評価 とその理由	添付資料 番号	
		○3年度も毎週水曜日を「ノー残業デー」に設定し、職員の定時帰宅日を設けることで、恒常的な時間外勤務を行わないように改めるとともに、ストレス過多の抑制に努めた。 ○午後5時30分以降の事務局窓口の閉鎖を引き続き実施することにより、職員の時間外業務の負担が軽減され、労働環境の改善に繋がった。 ○入試において、事前に専攻別の受験生の学内集合場所をホームページに掲載し、周知したことにより、職員の会場案内業務を簡素化することができた。	Ш			93
		○学部学校推薦型選抜及び大学院入試において、紙資料での出願方法を廃止し、インターネット出願システムを導入したことで、全ての入試区分がインターネット出願に移行した。これにより、これまで手作業で行っていた志願者情報の入力や、学生募集要項の印刷・郵送等の事務作業を削減することができ、事務の効率化を図ることができた。このほか、提出書類の記入漏れを防ぐ機能が高ましため、職員の書類の確認作業にかける時間やストとの、最初を明り、との意味である。また、コロナ禍の影響を受け、全受験者に向けての様々な通知が必要となったが、ウェブ出願時に志願者のメールアドレスが把握できたため、大学からの情報を一括でメール送信することが可能となり、緊急時においても予想以上の効果を上げた。	Ш		39-1 39-2 39-3	94

財務内容の改善に関する目標

1 外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加に関する目標

中期目標

科学研究費補助金などの競争的研究資金、社会連携等による共同研究及び受託研究などの外部資金、 寄附金等の獲得に積極的に取り組む。

中期計画	年度計画	業務実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価と異なる 評価委員会の評価 とその理由	添付資料 番号	
(7) 外部研究資金に関する幅広い情報を提供する。		〇本学ホームページの「科学研究費助成事業」ページにおける研究概要の紹介及び研究活動に伴う情報を更新し、最新の研究成果の発信に努めた。 〇科学研究費助成事業について、全教員への情報提供を随時実施した。 また、ホームページ上で採択済み科学研究費助成事業の研究内容を広く公開した。 〇教育研究センターの主催により、8月に科学研究費申請書類添削会をオンラインで開催し、教員2名が受講した。外部講師による申請および申請書類についてのアドバイス等を行い、3年度の公募の申請に繋げた。 〇その他の外部研究資金に関して、募集情報の掲示や全教員への情報提供を随時実施した。	Ш		64	95
		○文部科学省科学研究費助成事業の公募に3件の新規申請を行った。 また、既採択の継続課題9件に取り組んだ。 ○科学研究費以外の競争的資金の公募について、1件の新規申請を行った。(宇宙研究開発機構(JAXA)第3回地球観測研究公募) ○芳泉文化財団による研究室助成(日本画専攻)の既採択1件について、継続して取り組んだ。	Ш		65	96

中期計画	年度計画	業務実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価と異なる 評価委員会の評価 とその理由	添付資料 番号	
	告会を開催して申請を促	〇教育研究センターの主催により、8月に科学研究費申請書類添削会をオンラインで開催し、教員2名が受講した。外部講師による申請および申請書類についてのアドバイス等を行い、3年度の公募の申請に繋げた。 【再掲95】	Ш			97
	金のほか、市補助金や寄附	○企業や地方公共団体からの依頼について、社会連携センターにおいて内容と教育的な効果を確認し、産学連携事業を13件、地域連携事業を12件、連携協定を1件受託し、29,332千円の受託研究収入を計上するなど、当初見込の16,000千円を上回る収入を得た。また、受託内容については、これからの放送・メディア業界の方向性を考えた新たなサービスの提案や、新しい価値体験や生活を豊かにするモビリティデザインの提案など、新技術を踏まえた未来志向の依頼に加え、コロナ禍による暮らしの変化に伴い、お弁当・食品のテイクアウト容器のデザインの研究など美大ならではの機能性を重視した新しいデザインの提言を行った。 ○「かなびサポーター」制度を中心とした教育研究基金について、積極的な獲得に努めた。	IV	5–1		98

中期計画	年度計画	業務実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価と異なる 評価委員会の評価 とその理由	添付資料 番号	
	(か) 民間資金を活用した新たな社会連携事業を実施する。	〇2年度に引き続き、三谷産業株式会社と連携し、金沢の文化的景観を形成し大切な歴史遺産である「金澤町家」を活用した、アーティスト・イン・レジデンス事業の準備を進めた。本事業は、金沢市内において近年戸数が減ってきている「金澤町家」を保存・活用することで、地域貢献を目指す三谷産業株式会社と、国際交流の拡大を図り、アートにおける情報発信を積極的に行いたい本学との間で協議がまとまったものであり、ともに連携・協力を行い、事業を推進していくことで合意している。町家整備と管理体制に伴う経費は、当該企業で負担しており、3年度に関しては、本学の自己負担なしで事業の準備を整えることができた。	Ш	60-1 60-2		99

財務内容の改善に関する目標

- 2 経費の効率化に関する目標 (1) 人件費の適正化に関する目標

中期目標

教育研究の水準の維持・向上に配慮しながら、教職員等の採用・配置等の適正化を進める。

中期計画	年度計画	業務実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価と異なる 評価委員会の評価 とその理由	添付資料 番号	
き、計画的な教職員の定数	画的な教職員の定数管理と適 正配置を行う。	〇教員の人件費の予算総額を念頭に置きながら、本学の「人事の大綱」の人的構成要件をはじめとする総合的な観点から教員の採用・昇任・配置の在り方を教育研究審議会で協議したうえで、4年度昇任の可否、及び4年度採用時の格付けを決定した。	Ш			100
		〇専攻毎に学生定数を基に予算配分を行うとともに、シラバスの作成に入る前段階で各専攻と協議をすることにより、科目内容における非常勤講師の適切性を確認し、教育経費と連動させた人員配置を行った。 〇3年度は新型コロナ感染症の影響により招聘する非常勤講師の一部にも影響が出ることとなったが、ZOOMを用いたオンライン授業を行うことで教育の機会を確保した。	Ш			101

財務内容の改善に関する目標

- 2 経費の効率化に関する目標
 - (2) 人件費以外の経費の効率化に関する目標

中期目標

弾力的かつ効果的な予算執行に努めるとともに、業務の簡素化及び効率化を進める。

中期計画	年度計画	業務実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価と異なる 評価委員会の評価 とその理由	添付資料 番号	
	ける効率的で効果的な予算 執行を行う。	○機器のリース更新時に、リース品目など仕様の見直しや、再リース・買取も含めた検討を行うことで、効率的な予算執行を行った。 ○新キャンパス移転を見据えたリース機器更新計画を策定した。	Ш			102

財務内容の改善に関する目標 3 資産の運用管理の改善に関する目標

中期目標

資産の適正な管理を行うため、常に資産の状況について把握・分析を行い、効果的な活用を図る。

中期計画	年度計画	業務実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価と異なる 評価委員会の評価 とその理由	添付資料 番号	
率的かつ安全確実な資金運		〇過去の実績等に基づき資金計画表を作成し、収入・ 支出のバランスをとりながら堅実かつ効果的な資金運 用を行った。	Ш			103
等について、ホームページ	ジで公開するとともに、貸 出し等により所蔵品の有益	〇ホームページ上の所蔵品データベースを通して本学の所有する美術品等の情報を広く一般に公開した。また、作品の学外貸与8件24点のほか画像利用等を通じて所蔵品の有効活用にも努めた。	Ш		42	104
	買上作品を活用し、市民が	〇新キャンパス移転プロモーション展「教材としての芸術資料ー金沢美術工芸大学卒業・修了制作買上作品絵画・彫刻編ー」を開催して計36点の絵画・彫刻を展示し、所蔵品の活用と市民への公開に努めた。〇「卒業・修了作品魅力発信事業」の新設により、市内の公民館および市有施設の計4カ所に対し、本学所蔵の卒業・修了制作買上作品のうち計4点の絵画を貸し出した。	Ш		57-3 66	105
学の教育研究活動に支障が ない範囲で、学外者への有	障がない範囲で、大学施設	○2年度に引き続き、大学院棟前に自動販売機を設置 し、有償貸付を継続した。	Ш			106

自己点検・評価及び情報の提供に関する目標 1 評価の充実に関する目標

中期目標

自己点検・評価の結果を大学運営の改善に有効に反映させるため、点検・評価の内容、方法、体制等について、計画的かつ不断に見直しを行うとともに、その結果を公表する。

中期計画	年度計画	業務実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価と異なる 評価委員会の評価 とその理由	添付資料 番号	
	うとともに、認証評価を受審する。	○各委員会、等に対して、 ・大したを ・大した。 ・大した。 ・大した。 ・大した。 ・大した。 ・大した。 ・大した。 ・大した。 ・大した。 ・大した。 ・大した。 ・大した。 ・大した。 ・大した。 ・大した。 ・大した。 ・大いた。	IV		67	107
的かつ効果的に行い、かつ	(イ)大学の点検・評価について説明責任を果たすため、 オームページ等を活用し、 評価結果を積極的に公表する。	○本学ホームページ(大学概要・法人情報)に「3年度年度計画」を掲載し、教育活動の方針を明確にしてPDCAサイクルの基本とした。 ○金沢市公立大学法人評価委員会による評価を経て、「2年度業務実績評価書」、ならびに「2年度業務実績小項目評価」として掲載した。 ○一般財団法人大学教育質保証・評価センターにおいて受審した学校教育法第109条第2項に基づく認証評価の結果について本学ホームページ(大学概要・大学評価)で公開した。	Ш		68 69	108

自己点検・評価及び情報の提供に関する目標 2 情報公開や情報発信等の推進に関する目標

中期目標

社会に対する説明責任を果たすため、積極的な情報公開を図る。また、大学の活動を広く社会に示すため、教育研究活動や大学の特色について、積極的な情報発信を行う。

	1					
中期計画	年度計画	業務実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価と異なる 評価委員会の評価 とその理由	添付資料 番号	
(7) 広報実施体制と広報戦略を見直し、広報活動を強化する。	強化する。	○広報略に基づいた年度計画に従い、進学相談型・ 高校や予備校への訪問などを予相談会としていたが、新里・ 一大を決定を判断した。 「本学性の影響もあらの参加となり、高校・ 一大を特別を判断した。 「大学は、新型コロナ感染症の拡大の為、9月にオープンキャンパスを開催した。 「大学は、新型コロナ感染症の拡大の為、9月にオープンキャンパスを開催を表した。」 「大学生の技術を開催を発信する大き、1063回では、大学の関係など、2000年を発生の様子により、1063回である。 「大学生の様子により、1063回である。」である。 「大学生の様子により、1063回である。」であるに、1070では	Ш		41-1 41-2	109

中期計画	年度計画	業務実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価と異なる 評価委員会の評価 とその理由	添付資料 番号	
ジ等の広報媒体と方法を見	た機運の醸成のため、市民 に向けた積極的な情報発信	〇新キャンパス移転プロモーション事業の一環として、3年度は、井上涼氏に現キャンパスをモチーフにオリジナルイラストを描き起こしてもらい、新キャンパスを紹介するフライヤーを入れたクリアファイルを制作し、金沢市内の小学校・中学校全児童生徒に配布し新キャンパスのアピールを行った。 〇美術工芸研究所ギャラリーは、新型コロナの感染症の拡大による石川県緊急事態宣言および金沢市まん延防止等重点措置の適用期間中を除き、感染防止を徹底して開館し、学生や市民の制限付きの閲覧を可能とした。 企画展としては、10月4日~11月12日に「平成の百工比照ー染色の素材・道具・技法ー」展、11月22日~12月24日に「平成の百工比照ー陶磁の素材・道具・技法ー」展を開催し、染色・陶磁分野の資料の特集展示と工芸技術記録映像の公開を行った。 【再掲49】	Ш		45-1 45-2 70	110

その他業務運営に関する重要目標

1 施設設備の整備・活用等に関する目標

中期目標

施設設備の利用環境を良好に保ち、有効に活用するため、常に利用状況を把握するとともに、施設等の機能保全や維持管理を計画的に実施する。また、大学の将来像を見据え、新キャンパス構想の具体化を図る。

中期計画	年度計画	業務実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価と異なる 評価委員会の評価 とその理由	添付資料 番号	
	実施し、良好な学内環境の	〇工芸研究科1・2年演習室のファンコイルが故障し取替が必要となったが、新キャンパスへの移転を控えていることから、新品の購入ではなく、ファンコイルの使用頻度が低い部屋から移設することで対応したほか、雨漏り等、設備の老朽化による不具合にも対応するなど、費用対効果も検証し、学習環境の充実を図った。 【再掲25】	Ш			111

中期計画	年度計画	業務実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価と異なる 評価委員会の評価 とその理由	添付資料 番号	
づき、新キャンパスに必要	基づき、移転に向けた準備 を進める。	〇市や設計業者と協議し、各専攻が所管となるエリをなるエリをの諸室についる。電話のの完成配置の、電源の時間では、電源の時間では、電源の時間では、では、また、は、本ののは、は、ののでは、は、などをは、ないでは、は、ないでは、は、ないでは、は、ないでは、ないでは、ないでは、ない	īV	71		112
		〇ケヤキの実生の移植に向けて、使用する道具を購入するなど、来年度に向けた準備に着手した。	Ш			113

その他業務運営に関する重要目標 2 大学支援組織等との連携強化に関する目標

中期目標

同窓会、成美会、芸術関連組織、教育研究組織等との連携の強化を図り、学外からの支援体制を充実させる。

中期計画	年度計画	業務実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価と異なる 評価委員会の評価 とその理由	添付資料 番号	
(7) 卒業生や同窓会、成美会等と意見交換を行い、実効的な連携活動を実施する。		○3年度もコロナ禍であったため、同窓会代議員会や各支部会への学長の出席はかなわなかったが、大学と同窓会との理解を深めるため、学長、教務学生担当理事をはじめとする大学関係者と同窓会長などがオンラインでの協議を行い、同窓会への入会案内の周知方法や経理の在り方等に関して意見交換を行った。この結果、4年度の新入生オリエンテーション・2年生の在校生ガイダンスなどで、同窓会の活動を紹介する時間を設けるとともに会費の運用や徴収など同窓会の案内についてのより良い方向性を探り連携の強化に取り組んだ。	Ш			114
		〇コロナ禍のため、成美会(保護者会)の役員会及び総会は書面決議となったが、学内や各専攻の活動状況やカリキュラムなどを教職員がとりまとめ、保護者宛てに郵送することで情報提供を行い、大学への理解と支援を得られるよう努めた。 〇2年度に引き続き、成美会から学生のインフルエンザ予防接種に対する助成を実施した。 〇3年度より、あらたに学生の英語能力試験受験費を成美会が補助する制度を設け、6名に交付した。			30-1 30-2	115

その他業務運営に関する重要目標 3 安全管理に関する目標

中期目標

災害、事故、犯罪、感染症等による被害の発生の防止に努めるとともに、被害の発生に迅速かつ適切に 対応するため、危機管理体制の充実・強化を図る。また、環境に対して十分配慮する。

中期計画	年度計画	業務実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価と異なる 評価委員会の評価 とその理由	添付資料 番号	
(7) 危機管理体制の明確化を図る。	(7) 防災訓練の実施など、危機管理の充実を図る。	○消防計画に従い、防災訓練の一つである、地震の際の安全確保行動を身につけるための「シェイクアウト」を大学全体で実施した。また、小立野地区の防災マップを全学生に配布した。これに加え、消防士を講師として、教職員を対象とした防火講習を行った。 ○非常招集体制に基づいて、教授会等で全教職員が有事の際の自身の役割分担を確認したほか、防災備品の状況を確認し、大学全体の危機管理の充実を図った。 ○災害時を想定し、職員が非常参集訓練を実施した。	Ш		72	116
づき、労働災害、事故等の 未然防止、環境の保全を図	(イ)衛生委員会による点検活動を実施し、職場の改善と 労働災害等の未然防止、ならびに有害物質の流出防止 の対策を行う。	〇衛生委員会による学内の点検活動を随時実施した。 また、日常より全学的に職場環境の改善と労働災害 等の未然防止を意識した活動も継続し、教職員の労働 環境の改善及び学生の教育環境の安全・充実を推進し た。	Ш			117
		〇引き続き、加工機器等を使用する学生の指導を行う 工房助手を配置し、安全指導を徹底した。 また、制作や展示における安全指導を随時専攻内で 行うことにより、安全に対する意識の向上を図った。 〇レーザー加工機担当の実習助手を引き続き配置し、 学生の安全体制を強化した。	Ш			118

中期計画	年度計画	業務実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価と異なる 評価委員会の評価 とその理由	添付資料 番号	
	もに、感染症等への対応に	〇学生、及び教職員の健康診断については、新型コロナ感染症の拡大防止対策を講じた上で実施し、生活習慣病の予防や病気の早期発見を促すなど、健康管理を徹底した。 〇掲示板や学内放送で学生・教職員を対象に新型コロナ感染症の拡大防止への取り組みを呼びかけるとと下、保健だより」等を通じて感染症に関する指導、発活動を行った。 〇インフルエンザ予防接種を学内で実施することにより、集団感染の防止も図った。 〇金沢大学の協力により、新型コロナワクチン職域接種を実施することで、感染拡大防止及び重症化予防を図った。	Ш		73	119
	スチェックを実施し、また	○教職員を対象に、ストレスチェックを実施した。また、希望者には産業医による個別相談を実施するなど ストレスの軽減を図った。	Ш			120

その他業務運営に関する重要目標 4 人権擁護及び法令遵守に関する目標

中期目標

人権の尊重、知的財産の保護、研究倫理や法令遵守を徹底する。また、各種ハラスメント行為の発生を 防止するための制度の充実・強化を図る。

中期計画	年度計画	業務実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価と異なる 評価委員会の評価 とその理由	添付資料 番号	
	(7) 教職員の倫理意識の啓発 や人権侵害等の防止に向け 研修を実施する。	〇7月8日に、全教員及び研究費の執行・管理に従事する職員を対象に、研究不正防止推進会議及び社会連携センターによる「研究不正防止研修会」を開催した。終了後には小テストを行い、その結果を各人にフィードバックするなど、研修内容の理解促進と定着を図るとともに、教職員の研究倫理不正防止に対する意識の向上に努めた。〇2年度に、適正な執行状況の早期確認を目的に、これまで年度末のみに行っていた審査を年度途中にも実施することとしたが、研究不正防止推進会議において、2年度の実施状況を鑑みて、3年度以降も継続することとするととしたが、研究不正防止推進会議において、2年度の実施状況を鑑みて、3年度以降も継続することとするととしたが、研究不正防止がではよいでより、研究費の不正使用に対する教員の意識付けを強化した。〇管理職職員を対象とした人権研修に参加し、当該職員を中心として人権尊重の理念に基づいた職員の指導・育成を促進した。	Ш		74	121
		○「金沢美術工芸大学キャンパスハラスメントガイドライン」を学生便覧に掲載し学生への周知に努めることで、キャンパスハラスメントに関する理解の促進を図った。 ○2年度に引き続き相談室の紹介ウェブサイトや相談連絡先をQRコードで示すことで、アクセス性を向上させた。また12月の相談室のテーマをハラスメントとし相談室前の掲示板に学生から上がった意見を集約した。	Ш		32-1	122

中期計画	年度計画	業務実績(計画の進捗状況)	自己評価	自己評価と異なる 評価委員会の評価 とその理由	添付資料 番号	
	(か)新任教職員を対象に、学生との接し方の研修を行う。	〇新任教職員に対して初任者研修を開催し、キャンパスハラスメントガイドライン、研究倫理規程、本学における障がいのある学生への支援に関する基本方針等を含め、学生との接し方について学長から説明した。〇6月から10月にかけて、学生相談室において臨床心理士と新任教員5名との個別面談を行い、学生相談や合理的配慮およびハラスメント対策などの学生支援についての研修を行った。また教職員向け「学生対応の手引き」を配布した。	Ш		32-1 32-2	123
	権等の権利に関する研修を	〇新入生ガイダンスにおいて、教員から著作権等に関して知っておくべき事項を説明し、美術・デザイン・ 工芸を学ぶ上での自覚を促した。	ш		75	124
	(対)不正経理を防止する チェックを継続するととも に、科学研究費助成事業に おいて内部監査を実施し チェックを行う。	〇発注・納品・検収作業時には、経理業務における主・副担当制による職員相互のチェック体制、係長による業務の総括体制、検収員による確認を不断なく実施した。 〇2年度に、適正な執行状況の早期確認を目的に、これまで年度末のみに行っていた審査を年度途中にも実施することとしたが、研究不正防止推進会議において、2年度の実施状況を鑑みて、3年度以降も継続することとするとともに、時期の見直しを行った。3年度は10月までの分を11~12月に審査する中間審査を実施した。これにより、研究費の不正使用に対する教員の意識付けを強化した。【再掲121】「教員研究費ハンドブック」の記載を不断に見直すとともに、変更点については教授会を通して周知を図り、教職員の不正防止に努めた。	ш			125

予算(人件費の見積りを含む。)、収支計画及び資金計画

※ 財務諸表及び決算報告書を参照

短期借入金の限度額

中期目標	中期計画	年度計画	実績
		(1) 短期借入金の限度額 1億円 (2) 想定される理由 運営費交付金の受入遅延及 び事故の発生等により、緊急 に必要となる対策費として借 入れをすることが想定され る。	

重要な資産を譲渡し、又は担保に供する計画

中期目標	中期計画	年度計画	実績
	なし	なし	

剰余金の使途

中期目標	中期計画	年度計画	実績
	決算において剰余金が発生 した場合は、教育研究の質の 向上及び組織運営の改善に充 てる。	した場合は、教育研究の質の	○2年度決算において発生した剰余金80,506千円 は、全て「教育・研究の質の向上及び組織運営の改善のための目的積立金」として認定された。

金沢市の規則で定める業務運営に関する事項 1 施設及び設備に関する計画

中期目標	中期計画	年度計画	実績
			〇工芸研究科1・2年演習室のファンコイルが故障し取替が必要となったが、新キャンパスへの移転を控えていることから、新品の購入ではなく、ファンコイルの使用頻度が低い部屋から移設することで対応したほか、雨漏り等、設備の老朽化による不具合にも対応するなど、費用対効果も検証し、学習環境の充実を図った。
	(イ) 新キャンパス構想に基づき新キャンパスに必要な機能を具体的に検討し、金沢市による新キャンパス基本計画の策定に寄与する。		〇市や設計業者と協議し、各専攻が所管となる配置と協議し、各専攻が所管となる配置を完成のの情報に関連を急いでは、共配は、本のでは、大一にはなどを固めた。のは、大一には、大一には、大一には、大一には、大一には、大一には、大一には、大一に

金沢市の規則で定める業務運営に関する事項 2 人事に関する計画

中期目標	中期計画	年度計画	実績
	(ア) 法人職員の採用計画及び 昇任計画の策定を行う。	第2の1の(3)「人事制度の改善に関する目標を達成するための措置」に記載のとおり	○3年度については、美術科彫刻専攻においては従来の枠を超えメディアアート系の博士号を持つ作家を准教授として採用し、芸術学専攻では芸術評論と表現活動を併せ持つ研究者を講師として採用した。また、デザイン科視覚デザイン専攻ではファッ
	(4) 教育研究活動の質の向上 のために、多様で柔軟な教員 人事制度を検討する。		ション分野の豊富な実績を有するデザイナーを准教授として採用し、現場での経験が豊富なゲームクリエイターを講師として採用した。加えて、一般教育等ではネイティブな英語力の強化を目指し、外国人講師を採用するなど、教育研究活動の質の保証・向上に取り組んだ。〇4年度採用教員については、工芸科において指導経験が豊富で専門知識に精通する若手の作家を講師として採用することとした。
	(ウ) 教職員の育成、資質向上のために、効果的で多様な研修計画、研修方法を策定し、実施する。		〇近年相談件数が増えている学生のサポート体制を強化するため、学生相談を担当する職員を発達障害者等相談支援従事者育成研修(上級)に派遣するとともに、日本学生支援機構が主催する障害学生支援実務者育成研修会に参加した。また、障害者支援大学長連絡会議に教務学生担当理事が参加した。〇認証評価を受審するにあたり、大学教育質保証・評価センターが主催する3回の質保証研究会(オンライン)へ、学長補佐と事務担当者2名が参加した。「DE大学協会主催の大学セミナーへ事務担当者2名が参加した。「〇合理的配慮の基本的な考え方と支援体制についての研修を教職員に対し実施した。

金沢市の規則で定める業務運営に関する事項 3 積立金の使途

中期目標	中期計画	年度計画	実績
	なし	なし	